

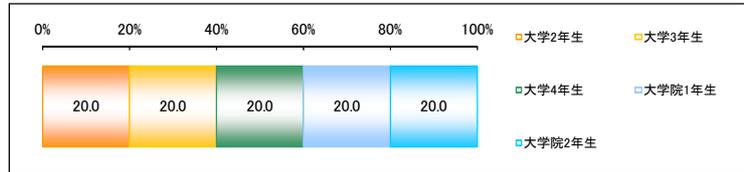
### Ⅲ. 分析

#### 1 調査結果

##### 1) 調査回答者の属性

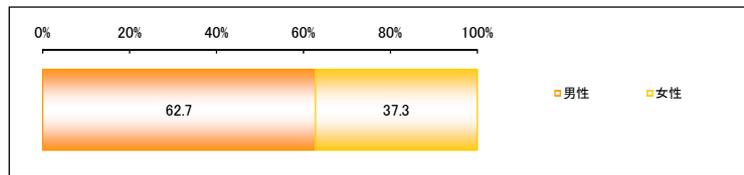
###### 【学年】

	n	%
全体	5000	100.0
大学2年生	1000	20.0
大学3年生	1000	20.0
大学4年生	1000	20.0
大学院1年生	1000	20.0
大学院2年生	1000	20.0



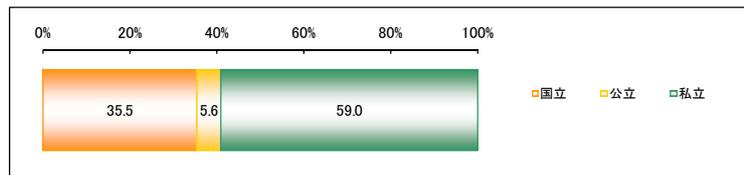
###### 【性別】

	n	%
全体	5000	100.0
男性	3137	62.7
女性	1863	37.3



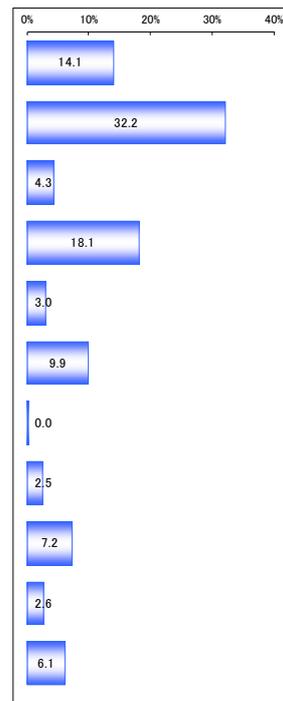
###### 【設置主体（国公立）】

	n	%
全体	5000	100.0
国立	1773	35.5
公立	279	5.6
私立	2948	59.0



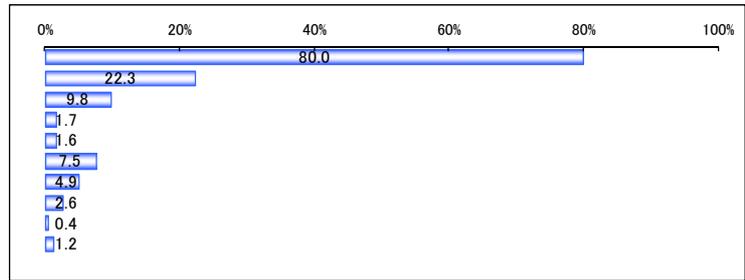
###### 【専攻】

	n	%
全体	5000	100.0
人文科学(文学、史学、哲学、その他)	704	14.1
社会科学(法学・政治学、商学・経済学、社会学、その他)	1608	32.2
理学(数学、物理学、化学、生物学、地学、その他)	217	4.3
工学 (機械工学、電気通信工学、土木建築工学、応用化学、応用理学、原子力工学、鉱山学、金属工学、繊維工学、船舶工学、航空工学、経営工学、工芸学、その他)	906	18.1
農学 (農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、林学、林産学、獣医学畜産学、水産学、その他)	149	3.0
保健(医学、歯学、薬学、看護学、その他)	496	9.9
商船(商船学)	1	0.0
家政(家政学、食物学、被服学、住居学、児童学、その他)	124	2.5
教育 (教育学、小学校課程、中学校課程、高等学校課程、特別教科課程、盲学校課程、聾学校課程、中等教育学校課程、養護学校課程、幼稚園課程、体育学、障害児教育課程、特別支援教育課程、その他)	362	7.2
芸術(美術、デザイン、音楽、その他)	129	2.6
その他 (教養学、総合科学、教養課程(文科)、教養課程(理科)、教養課程(その他)、人文・社会科学、国際関係学(国際関係学部)、人間関係科学、その他)	305	6.1



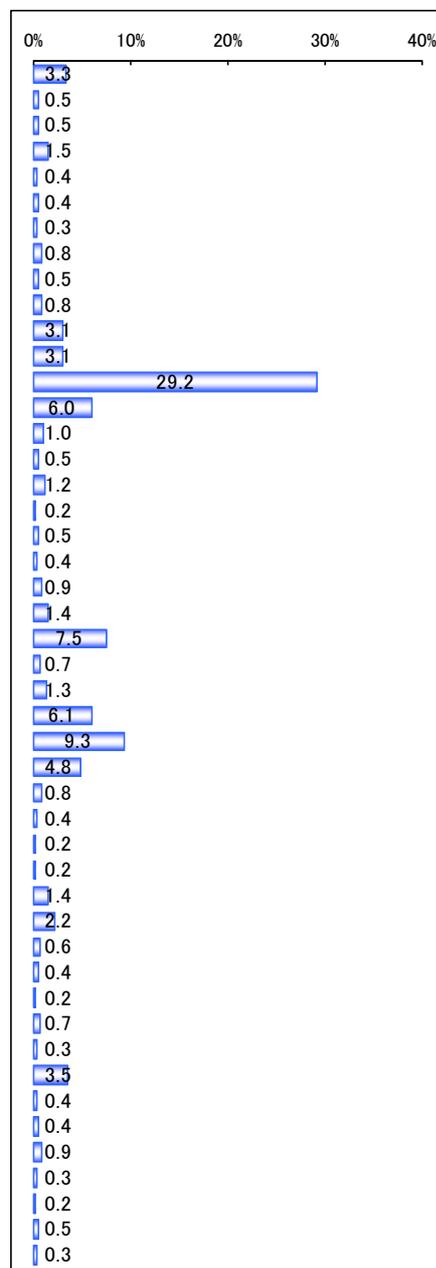
### 【卒業後の進路】

	n	%
全体	5000	100.0
民間企業に就職	3999	80.0
公務員に就職	1113	22.3
教職員に就職	488	9.8
NPOに就職	84	1.7
自営・家業に就職	79	1.6
その他の就職	373	7.5
進学(国内)	245	4.9
海外留学	129	2.6
留年	18	0.4
起業する	58	1.2



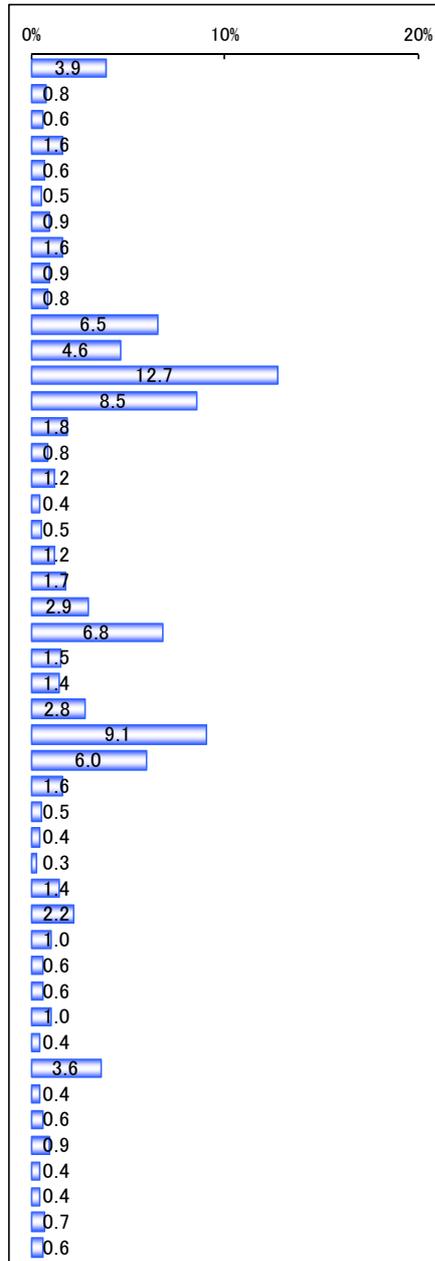
### 【大学所在地】

	n	%
全体	5000	100.0
北海道	166	3.3
青森県	26	0.5
岩手県	27	0.5
宮城県	73	1.5
秋田県	20	0.4
山形県	22	0.4
福島県	14	0.3
茨城県	39	0.8
栃木県	24	0.5
群馬県	39	0.8
埼玉県	154	3.1
千葉県	154	3.1
東京都	1461	29.2
神奈川県	301	6.0
新潟県	51	1.0
富山県	23	0.5
石川県	58	1.2
福井県	10	0.2
山梨県	25	0.5
長野県	20	0.4
岐阜県	46	0.9
静岡県	71	1.4
愛知県	375	7.5
三重県	33	0.7
滋賀県	67	1.3
京都府	303	6.1
大阪府	465	9.3
兵庫県	239	4.8
奈良県	39	0.8
和歌山県	20	0.4
鳥取県	12	0.2
島根県	10	0.2
岡山県	72	1.4
広島県	110	2.2
山口県	31	0.6
徳島県	21	0.4
香川県	10	0.2
愛媛県	34	0.7
高知県	14	0.3
福岡県	174	3.5
佐賀県	18	0.4
長崎県	22	0.4
熊本県	43	0.9
大分県	13	0.3
宮崎県	12	0.2
鹿児島県	26	0.5
沖縄県	15	0.3



【出身地】

	n	%
全体	5000	100.0
北海道	193	3.9
青森県	38	0.8
岩手県	29	0.6
宮城県	80	1.6
秋田県	32	0.6
山形県	24	0.5
福島県	44	0.9
茨城県	79	1.6
栃木県	47	0.9
群馬県	40	0.8
埼玉県	325	6.5
千葉県	231	4.6
東京都	635	12.7
神奈川県	426	8.5
新潟県	90	1.8
富山県	40	0.8
石川県	58	1.2
福井県	20	0.4
山梨県	26	0.5
長野県	58	1.2
岐阜県	87	1.7
静岡県	147	2.9
愛知県	339	6.8
三重県	74	1.5
滋賀県	70	1.4
京都府	138	2.8
大阪府	453	9.1
兵庫県	299	6.0
奈良県	78	1.6
和歌山県	27	0.5
鳥取県	21	0.4
島根県	14	0.3
岡山県	70	1.4
広島県	109	2.2
山口県	50	1.0
徳島県	28	0.6
香川県	28	0.6
愛媛県	49	1.0
高知県	21	0.4
福岡県	180	3.6
佐賀県	21	0.4
長崎県	31	0.6
熊本県	47	0.9
大分県	21	0.4
宮崎県	20	0.4
鹿児島県	35	0.7
沖縄県	29	0.6



## 2 調査結果の詳細

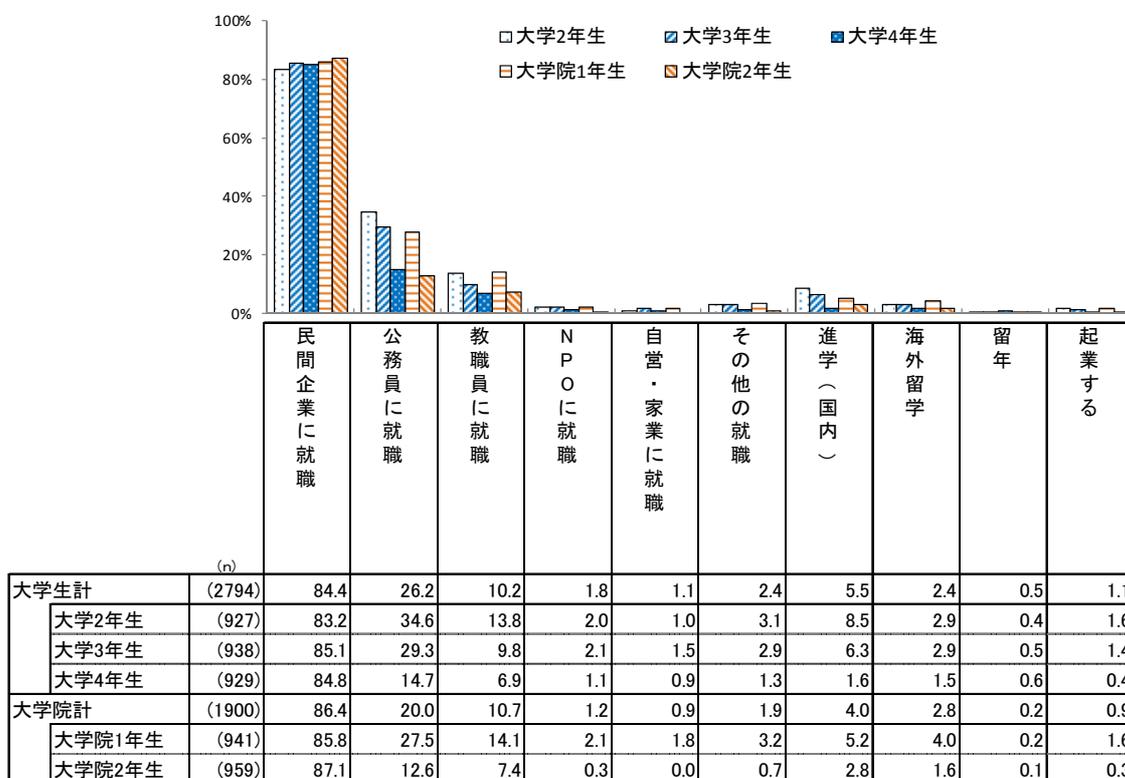
### 1) 学生（大学生・大学院生）の就職に関する意識

#### (1) 卒業後の予定進路

大学生、大学院生ともに8割以上が「民間企業に就職」を予定している。大学生の「公務員に就職」は26%、「教職員に就職」は10%である。学年が進むに従って「公務員」や「教職員」を予定する割合が低くなる。

SC5. あなたは、卒業後にどのような進路を予定していますか。あてはまるもの全てをお選びください。（いくつでも）

図 1-1 卒業後の予定進路



※調査対象は、卒業後に就職を予定している学生（民間企業、公務員、教職員、NPO、自営・家業、その他）であるが、分析対象は民間企業、公務員、教職員のいずれかを予定している学生としている。

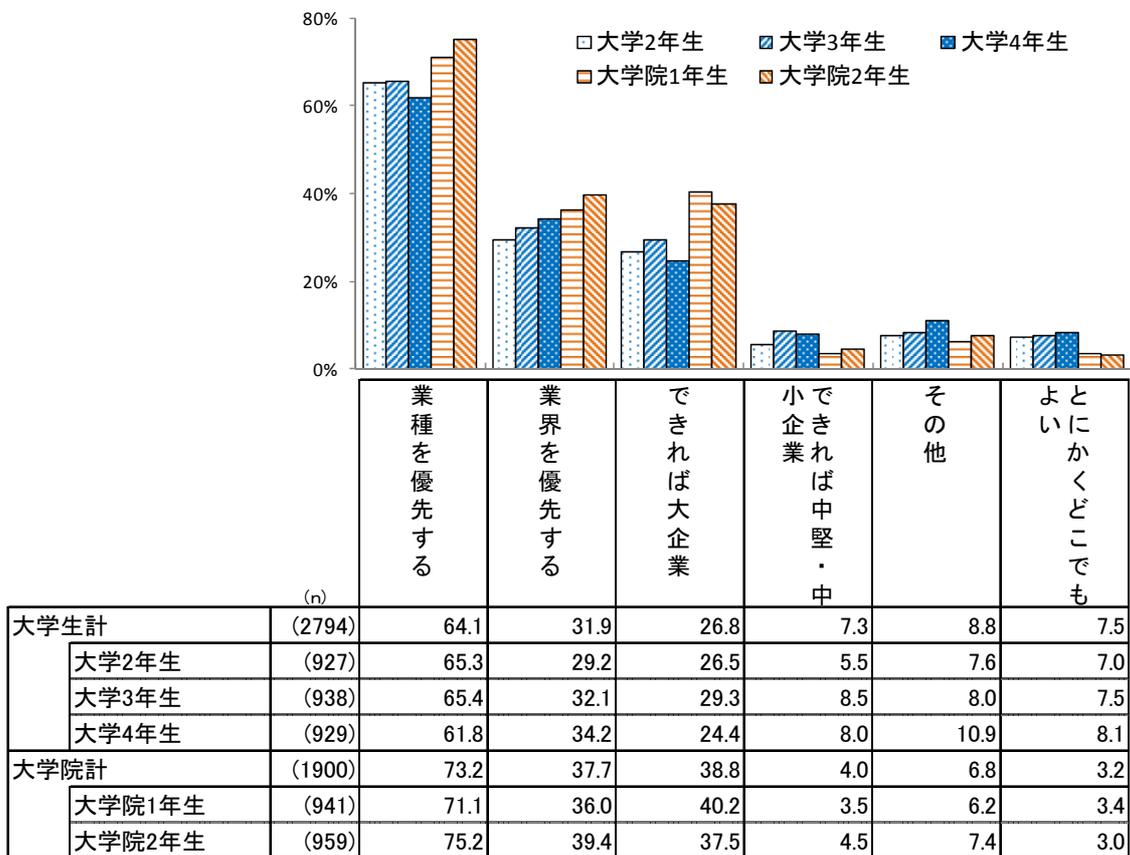
※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

(2) 就職に対するこだわり

就職するに当たり、「とにかくどこでもよい」と考える学生はほとんどおらず、各学年とも「業種、業界を優先する」と回答している。また、「できれば中堅・中小企業」と回答した割合は、大学生が7%、大学院生が4%となった。「できれば大企業」は大学生が27%、大学院生が39%であり、大学生よりも大学院生は大企業を志向している。

Q8. あなたは就職するに当たり、どのようなことにこだわりますか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)

図 1.2 就職に対するこだわり



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

※調査票では業種、業界の用語について特段の説明を加えていない

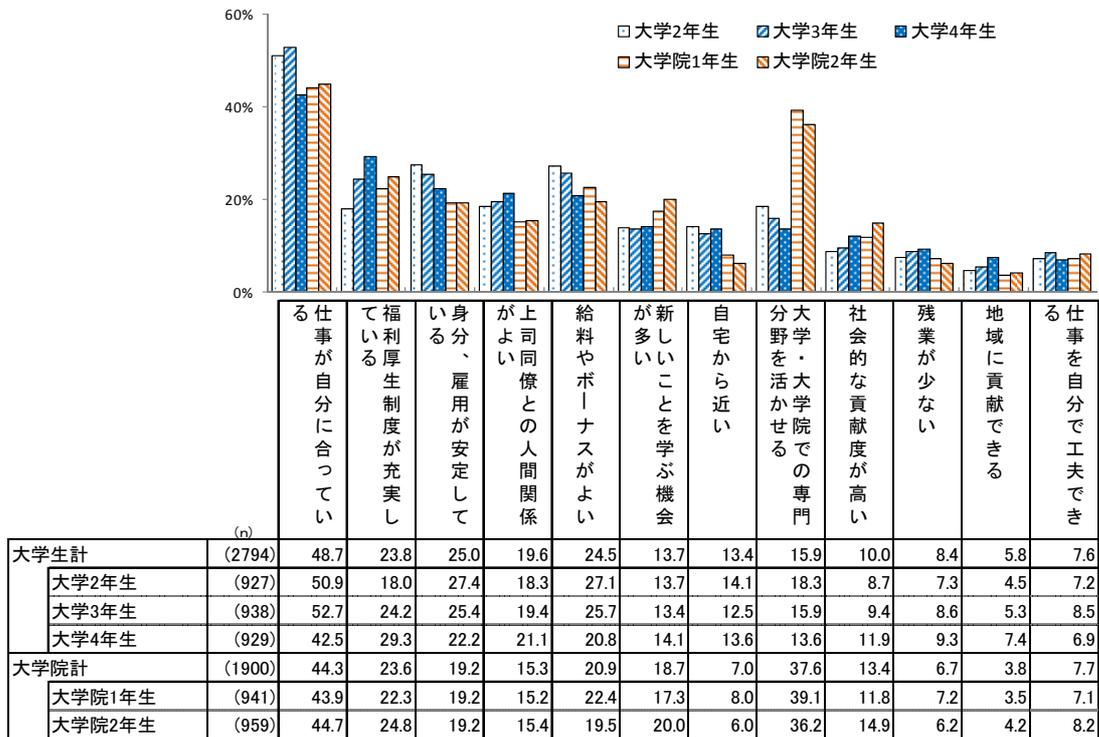
(3) 就職時に重視すること

就職時に重視することとして、就職・採用活動開始時期変更前の大学4年生は「仕事が自分に合っている」を第一に選び、以下「福利厚生制度が充実している」、「身分、雇用が安定している」、「上司同僚との人間関係がよい」、「給料やボーナスがよい」、「新しいことを学ぶ機会が多い」、「大学・大学院での専門分野を活かせる」を上位に挙げている。就職・採用活動開始時期変更後の大学3年生は大学4年生と同様の傾向となっている。

大学院2年生は大学4年生よりも、「大学・大学院での専門分野を活かせる」、「新しいことを学ぶ機会が多い」を重視している。大学院1年生は大学院2年生と同様の傾向を示している。

Q9. あなたは就職時にどのようなことを重視しますか。特に重視するものを最大3つまでお選びください。(3つまで)

図 1-3-1 就職時に重視すること





	(n)	よい オフィス などの 環境が	実力、 能力 本位の 処遇	男女 平等 に活 躍で きる	仕事 が単 調で ない	将来 独立 に役 立つ	海外 で仕事 がで きる	経営 者が 魅力 的	勤務 先の 知名 度が高 い	昇進 の機 会が多 い	仕事 が時 代の先 端	その他
大学生計	(2794)	7.4	7.2	4.6	4.0	3.5	3.7	2.8	2.9	1.8	1.4	2.6
大学2年生	(927)	7.8	8.4	4.1	4.0	2.8	2.9	3.0	2.8	1.4	1.3	2.3
大学3年生	(938)	8.3	7.0	4.8	3.5	3.5	4.5	1.9	2.3	2.0	1.8	1.9
大学4年生	(929)	6.2	6.0	5.0	4.6	4.2	3.7	3.4	3.4	1.9	1.0	3.7
大学院計	(1900)	4.8	9.8	3.5	3.8	3.1	4.4	1.5	3.3	2.6	3.9	1.8
大学院1年生	(941)	5.8	10.0	3.0	3.9	2.6	3.7	1.4	2.9	3.1	4.1	2.0
大学院2年生	(959)	3.9	9.6	4.0	3.6	3.6	5.1	1.7	3.6	2.1	3.8	1.7

※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

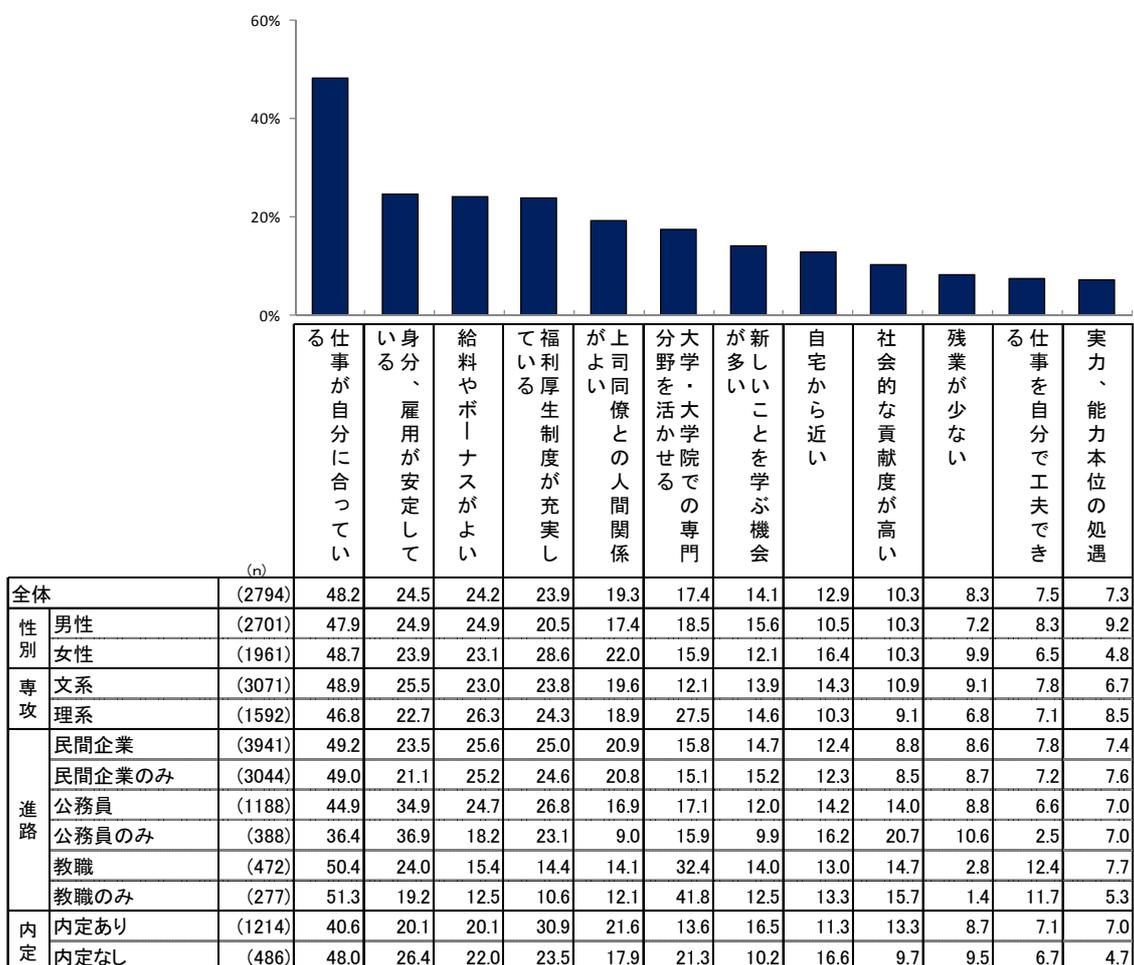
女子学生は「上司同僚との人間関係」、「自宅から近い」を重視する傾向がある。

理系学生は「大学・大学院での専門分野を活かせる」を重視する傾向がある。

公務員を希望する学生は「身分、雇用が安定している」、「社会的な貢献度が高い」、教職を希望する学生は「大学・大学院での専門分野を活かせる」を重視する傾向がある。

内定を取得した学生は「福利厚生制度が充実している」、「新しいことを学ぶ機会が多い」を重視する傾向がある。他方、「仕事が自分に合っている」、「身分、雇用が安定している」、「大学・大学院での専門分野を活かせる」、「自宅から近い」は内定未取得者より重視する割合が低い。

図 1-3-2 就職時に重視すること（上位項目）：性別、専攻、進路、内定



※ウエイトバック集計の結果

(4) 就職活動を行う際に不安なこと

就職活動を行う際に不安なこととして、大学4年生は「自分にどのような職業が適しているのか」、「最終的に就職できるのか」、「上手く自己アピールできるのか」、「就職してから職場になじめるのか」、「どのような準備や対策をすべきなのか」、「どのような基準で採用選考をしているのか」などを上位に挙げている。

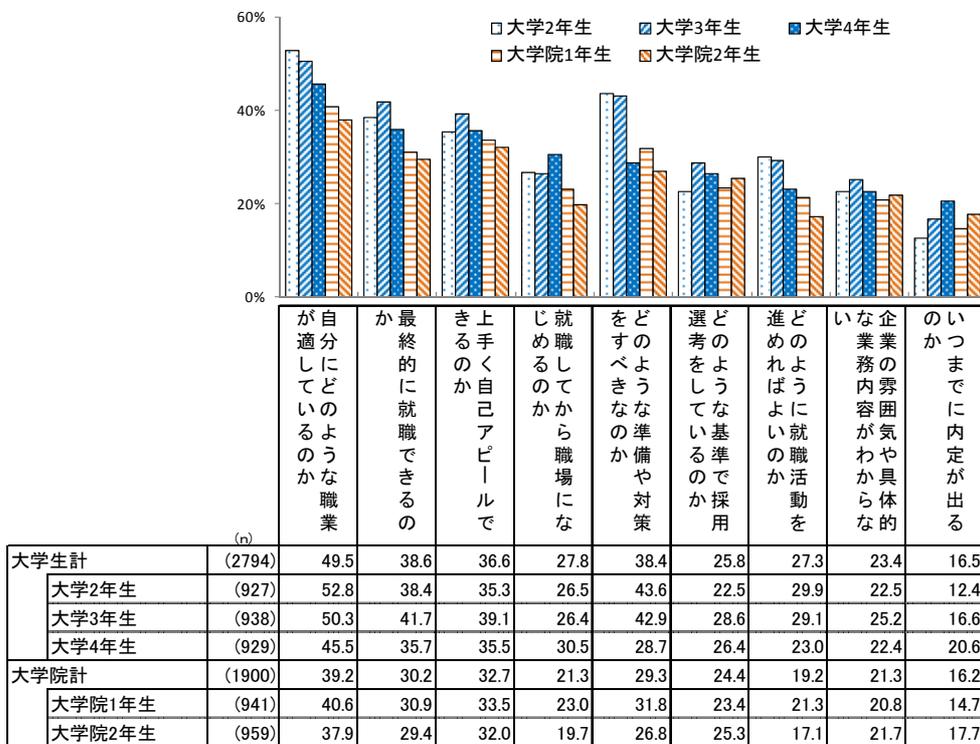
就職・採用活動開始時期変更後の大学3年生は大学4年生と比べて「どのような準備や対策をすべきなのか」、「どのように就職活動を進めればよいのか」、「いつから準備や対策を進めるべきなのか」、「どのように情報を集めるのか」など就職活動の準備や進め方に不安を感じている。

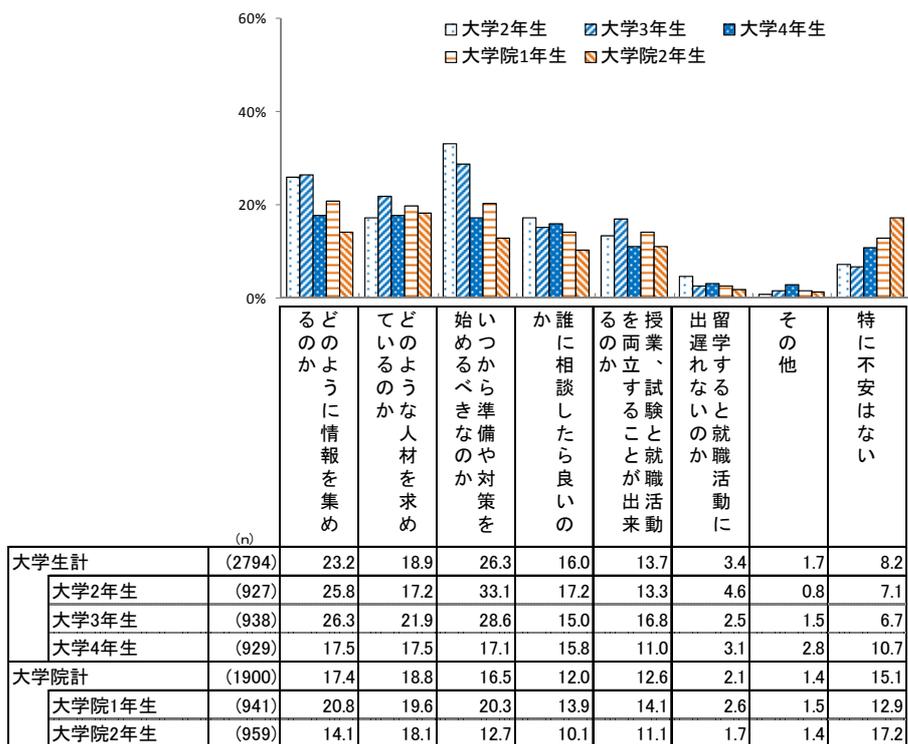
大学院生は大学生と同じような不安を感じているが、一般的に大学生よりも不安の回答率は低い。

大学生、大学院生ともに「自分にどのような職業が適しているのか」という回答が最も多いことから、キャリア教育・インターンシップを通じ自己分析、業界研究を進めてもらうことが必要である。

Q10. あなたは就職活動を行うにあたり、不安なことがありますか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも) ※就職活動を終えた人は、活動中のことを思い出してお答えください。

図 1-4-1 就職活動を行う際に不安なこと

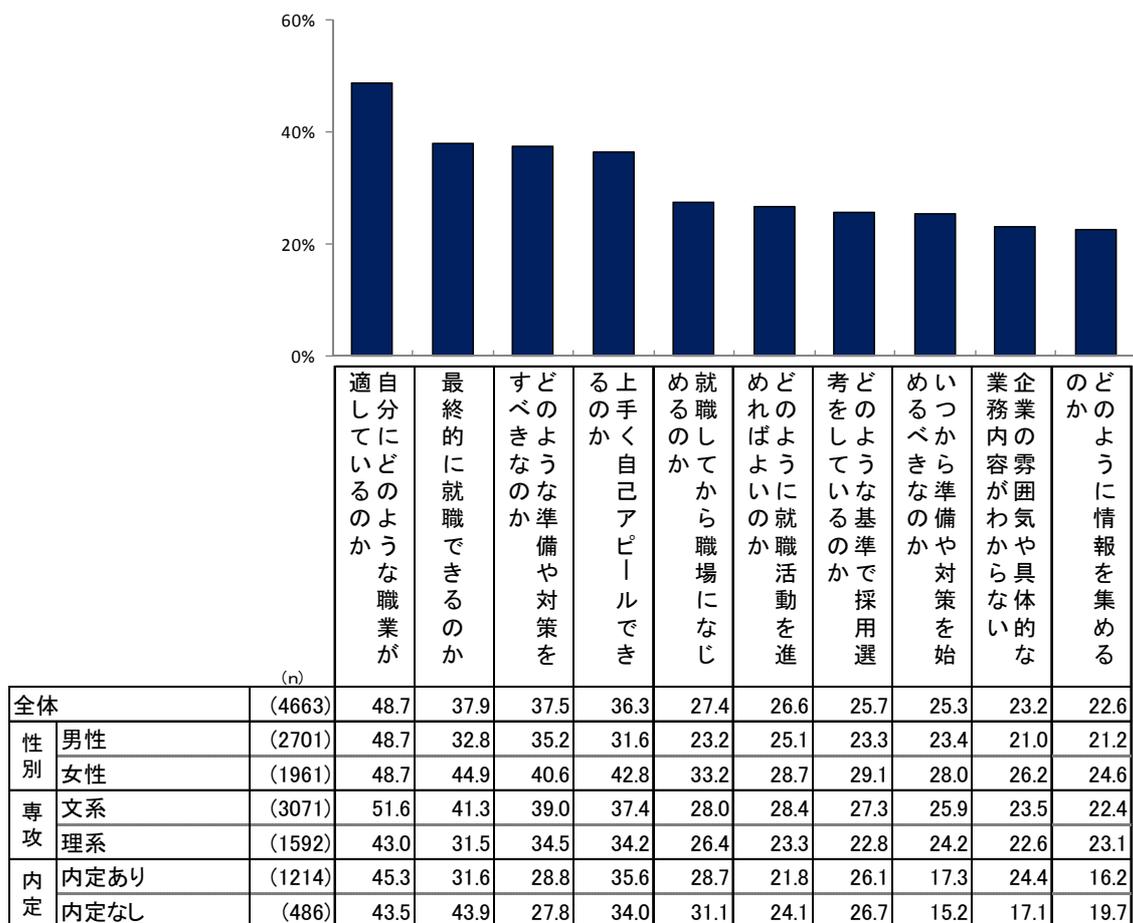




※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

女子学生は男子学生よりも全般的に不安を感じている。  
 文系学生は理系学生よりも全般的に不安を感じている。  
 内定未取得者は「最終的に就職できるのか」、「どのように情報を集めるのか」に不安を感じる傾向がある。

図 1-4-2 就職活動を行う際に不安なこと（上位項目）：性別、専攻、内定



※ウエイトバック集計の結果

(5) 転職に関する考え方

転職について、大学4年生の36%、大学院2年生の31%は「やりたい仕事が見つければ転職したい」と考えている。他方、大学生4年生の40%、大学院2年生の47%は「できれば定年まで働く」ことを考えている。

Q11. あなたは「転職」に対してどのようにお考えですか。あなたのお気持ちに最もあてはまるものを1つお選びください。

図 1-5-1 転職に関する考え方

		(%)						働き続ける計	転職したい計
(n)	定年まで働く	我慢する	早く転職したい	やりたい仕事なら転職	その他	よくわからない			
大学生計	(2794)	39.1	5.9	1.3	33.6	1.5	18.6	45.0	34.9
大学2年生	(927)	38.3	5.4	0.5	32.9	1.2	21.7	43.7	33.4
大学3年生	(938)	38.7	5.3	0.9	32.1	1.5	21.5	44.0	32.9
大学4年生	(929)	40.3	7.1	2.6	35.7	1.3	12.5	47.4	38.3
大学院計	(1900)	45.5	4.2	1.5	31.8	2.4	14.7	49.7	33.3
大学院1年生	(941)	43.6	4.3	1.8	32.5	3.1	14.8	47.8	34.3
大学院2年生	(959)	47.4	4.1	1.1	31.1	1.7	14.6	51.5	32.2

※働き続ける計：「できれば定年まで働く」と「つらくても我慢する」の合計

転職したい計：「できるだけ早く転職したい」と「やりたい仕事が見つければ転職したい」の合計

就職活動の結果が希望通りであった学生は、希望通りでなかった学生よりも「定年まで働く」の割合が高い。ただし、希望通りであっても25%は「やりたい仕事が見つければ転職したい」と考えている。他方、希望通りでなかった学生は4~5割近くが「やりたい仕事が見つければ転職したい」と考えている。

Q11. あなたは「転職」に対してどのようにお考えですか。あなたのお気持ちに最もあてはまるものを1つお選びください。

図 1-5-2 転職に関する考え方：就職活動の結果 (Q33)

		(%)						働き続ける計	転職したい計
(n)	定年まで働く	我慢する	早く転職したい	やりたい仕事なら転職	その他	よくわからない			
希望通りであった	(528)	51.0	9.4	2.8	25.3	1.8	9.6	60.4	28.2
まあまあ希望通りであった	(613)	39.4	4.8	3.1	35.8	2.9	14.0	44.2	38.9
あまり希望通りでなかった	(238)	30.6	6.4	0.9	48.9	1.1	13.1	37.1	49.8
希望通りでなかった	(320)	35.2	6.8	1.7	40.4	1.1	14.9	42.0	42.1

※働き続ける計：「できれば定年まで働く」と「つらくても我慢する」の合計

転職したい計：「できるだけ早く転職したい」と「やりたい仕事が見つければ転職したい」  
の合計

※ウエイトバック集計の結果

内定取得学生の約半数は就職した場所で働き続けるという意識（定年まで働く我慢するの合計）を持つが、3割強は「やりたい仕事が見つければ転職したい」と考えている。

図 1-5-3 転職に関する考え方：就職活動の結果（Q33）

	(n)	(%)						働き続ける計	転職したい計
		定年まで働く	我慢する	早く転職したい	やりたい仕事 なら転職	その他	よくわからない		
内定取得	(1214)	41.6	7.6	8.1	34.1	2.1	11.4	49.2	37.2
内定未取得	(486)	39.4	4.8	0.7	38.1	1.1	15.8	44.2	38.8

※働き続ける計：「できれば定年まで働く」と「つらくても我慢する」の合計

転職したい計：「できるだけ早く転職したい」と「やりたい仕事が見つければ転職したい」  
の合計

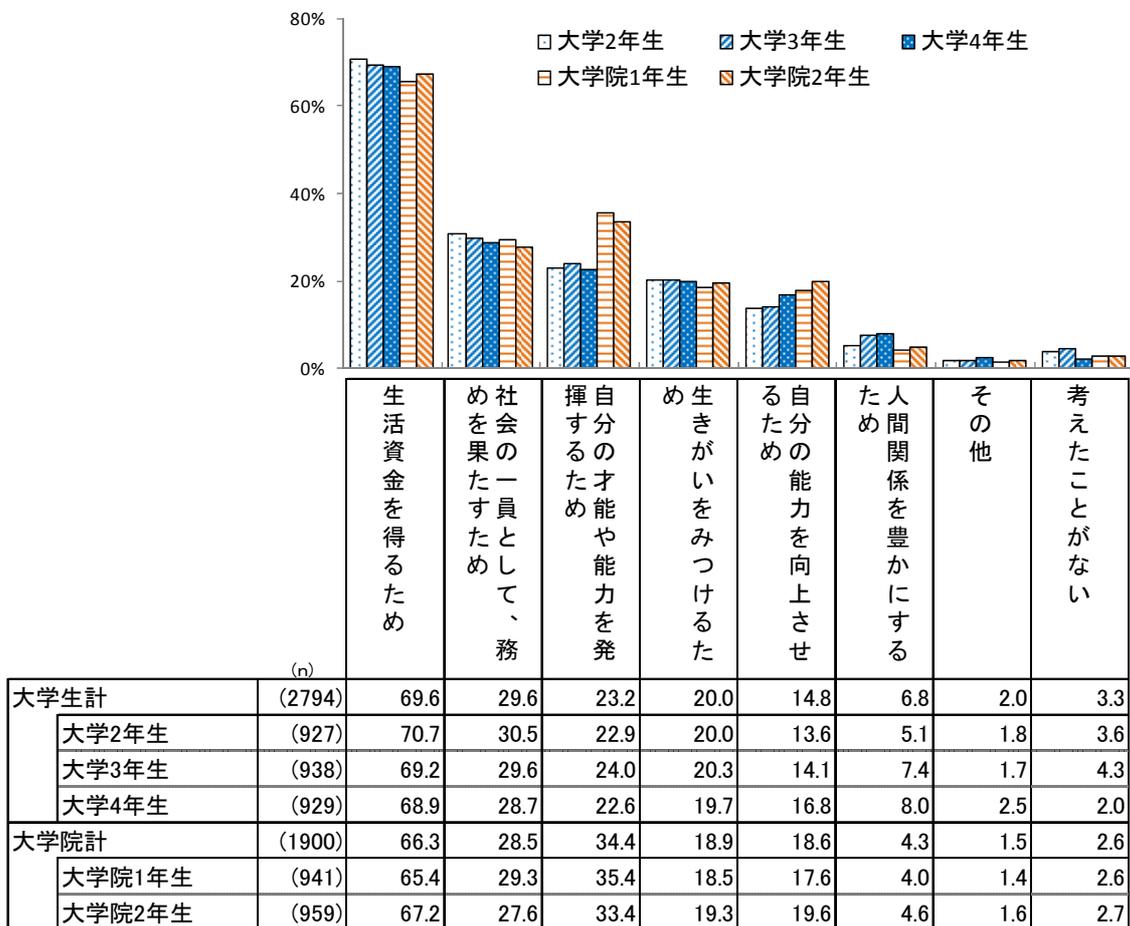
※ウエイトバック集計の結果

(6) 働く目的

働く目的について、「生活資金を得るため」が最も多く、次いで「社会の一員として、務めを果たすため」、「自分の才能や能力を発揮するため」、「生きがいを見つけるため」、「自分の能力を向上させるため」などである。大学院生は大学生よりも「自分の才能や能力を発揮するため」、「自分の能力を向上させるため」といった能力開発を目的とする割合が高い。

Q12. あなたにとって、働く目的はどのようなことでしょうか。特に重視するものを2つまでお選びください。(2つまで)

図 1-6 働く目的



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

## 2) 就職・採用活動開始時期の変更の認知度等について

### (1) 就職・採用活動開始時期変更についての認知

平成 27 (2015) 年度卒業・修了予定者 (現在の大学 3 年生等) から就職・採用活動開始時期が変更になることについて、大学 3 年生の 80%、大学院 1 年生の 78%は「知っている」と回答している。大学 2 年生の「知っている」は 56%に留まっている。

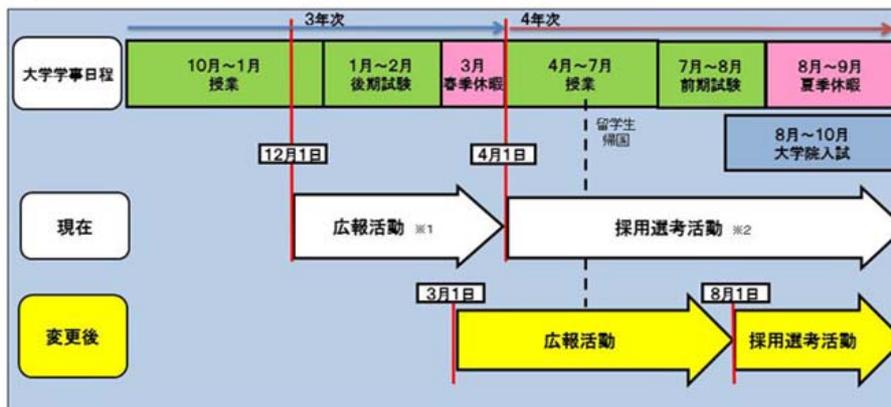
Q13. あなたは平成 27 (2015) 年度卒業・修了予定者 (現在の大学 3 年生等) から就職・採用活動開始時期が変更になることをご存知ですか。

【内閣府】就職・採用活動開始時期の変更について

[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ywforum/pdf/zikihenkou\\_info.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ywforum/pdf/zikihenkou_info.pdf)

### 就職・採用活動開始時期変更後のスケジュール (総理要請及び「日本再興戦略」の内容)

平成27年度卒業・修了予定者(現在の大学3年生等)から、  
広報活動は、卒業・修了年度に入る直前の**3月1日以降**に開始、  
その後の採用選考活動は、卒業・修了年度の**8月1日以降**に開始となります。



※1 広報活動: 採用を目的とした情報を学生に対して発信する活動。採用のための実質的な選考とならない活動。  
※2 採用選考活動: 採用のための実質的な選考を行う活動。採用のために参加が必須となる活動。

図 2-1-1 就職・採用活動開始時期変更についての認知

		(%)	
		知っている	知らなかった
		(n)	
大学生計	(2794)	71.7	28.3
大学2年生	(927)	55.9	44.1
大学3年生	(938)	80.0	20.0
大学4年生	(929)	79.1	20.9
大学院計	(1900)	78.5	21.5
大学院1年生	(941)	77.9	22.1
大学院2年生	(959)	79.1	20.9

保健（医学、歯学、薬学、看護学、その他）、教育（教育学、小学校課程、中学校課程、高等学校課程、特別教科課程、盲学校課程、聾学校課程、中等教育学校課程、養護学校課程、幼稚園課程、体育学、障害児教育課程、特別支援教育課程、その他）の学生は認知度が低い傾向にある。

教職や公務員を希望する学生は、民間企業を希望する学生よりも認知度が低い傾向にある。

設置主体では認知に差がない。

認知が低い大学所在地は、北陸、中部、四国である。

図 2-1-2 就職・採用活動開始時期変更についての認知：性別、専攻、進路

(%)

		(n)	知っている	知らなかった
全体		(4663)	72.3	27.7
性別	男性	(2701)	71.1	28.9
	女性	(1961)	73.9	26.1
専攻	人文科学	(656)	76.8	23.2
	社会科学	(1552)	78.4	21.6
	理学	(209)	70.5	29.5
	工学	(883)	72.7	27.3
	農学	(138)	70.9	29.1
	保健	(362)	47.5	52.5
	家政	(112)	72.7	27.3
	教育	(354)	59.1	40.9
	芸術	(114)	72.8	27.2
	その他	(282)	77.2	22.8
	進路	民間企業	(3941)	74.1
民間企業のみ		(3044)	74.7	25.3
公務員		(1188)	70.2	29.8
公務員のみ		(388)	69.6	30.4
教職		(472)	60.7	39.3
教職のみ		(277)	51.8	48.2

図 2-1-3 就職・採用活動開始時期変更についての認知：設置主体、大学所在地

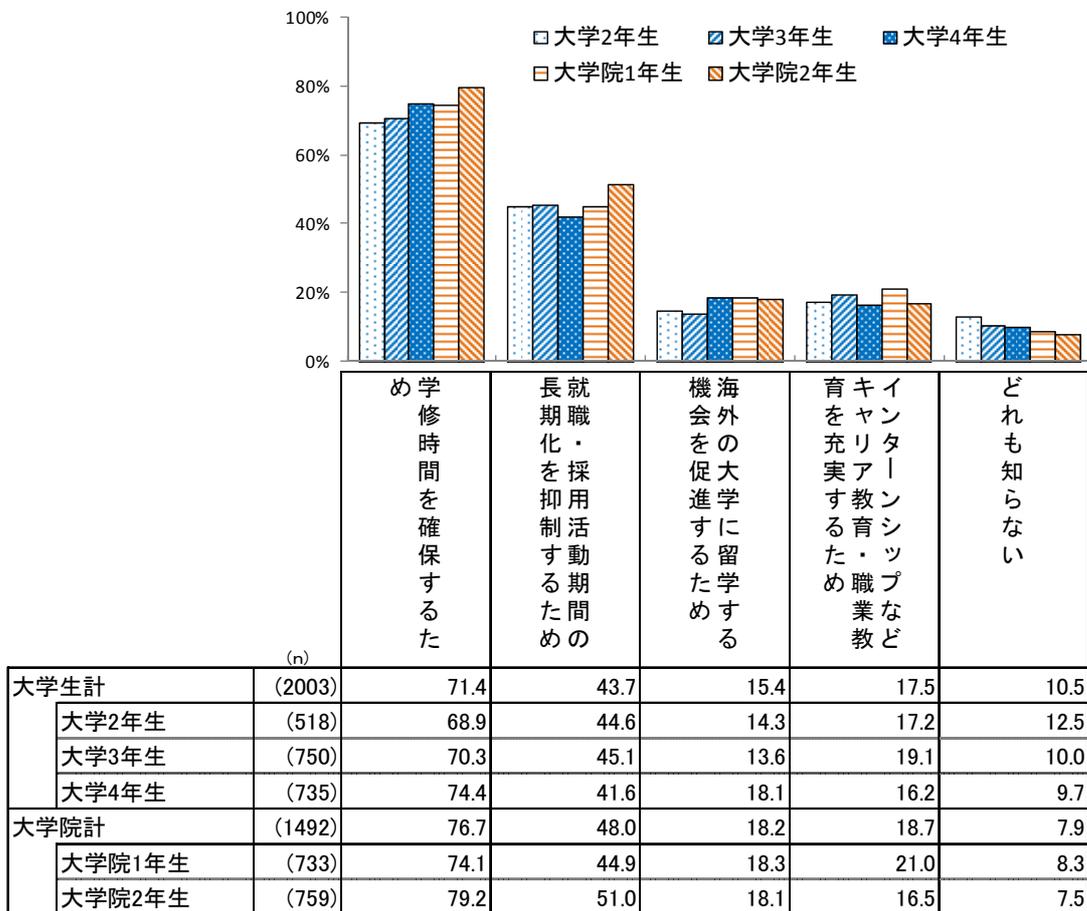
		(n)	知っている	知らなかった	(%)
全体		(4663)	72.3	27.7	
設置主体	国立	(970)	72.9	27.1	
	公立	(229)	74.5	25.5	
	私立	(3464)	72.0	28.0	
大学所在地	北海道	(146)	71.1	28.9	
	東北	(167)	73.4	26.6	
	関東	(2047)	73.7	26.3	
	北陸	(133)	60.7	39.3	
	中部	(490)	68.6	31.4	
	近畿	(1093)	73.2	26.8	
	中国	(218)	72.3	27.7	
	四国	(74)	67.8	32.2	
	九州	(282)	70.6	29.4	
	沖縄	(14)	97.4	2.6	

(2) 就職・採用活動開始時期変更の目的の認知

就職・採用活動開始時期変更の目的の認知状況について、「学修時間を確保するため」の回答が最も多く、次いで「就職・採用活動期間の長期化を抑制するため」であった。他に「インターンシップなどキャリア教育・職業教育を充実するため」は、就職・採用活動開始時期変更後の大学3年生の19%、大学院1年生の21%、「海外の大学に留学する機会を促進するため」は大学3年生の14%、大学院1年の18%が回答している。大学2年生の回答結果も大学3年生の回答結果と同様の傾向であった。

Q14. 平成27(2015)年度卒業・修了予定者(現在の大学3年生等)から就職・採用活動開始時期を変更する目的をご存知ですか。次の中からご存知のものを全てお選びください。(いくつでも)

図2-2 就職・採用活動開始時期変更の目的の認知



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

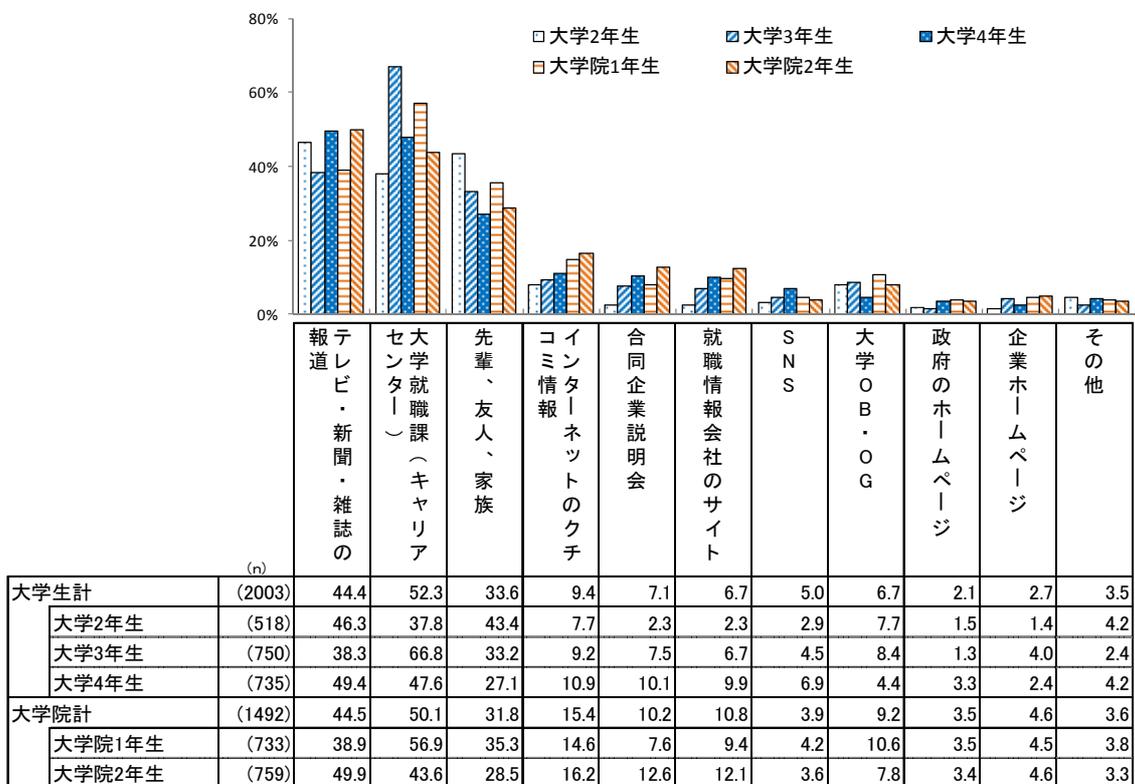
※就職・採用活動開始時期変更の認知者

(3) 就職・採用活動開始時期変更の認知媒体

主に「テレビ・新聞・雑誌の報道」、「大学就職課（キャリアセンター）」、「先輩、友人、家族」を通じて、就職・採用活動開始時期の変更を認知している。その中でも大学3年生や大学院1年は半数以上が「大学就職課（キャリアセンター）」と回答している。

Q15. あなたは平成 27（2015）年度卒業・修了予定者（現在の大学3年生等）から就職・採用活動開始時期が変更になることを何から知りましたか。あてはまるもの全てをお選びください。（いくつでも）

図 2-3 就職・採用活動開始時期変更の認知媒体



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

※就職・採用活動開始時期変更の認知者

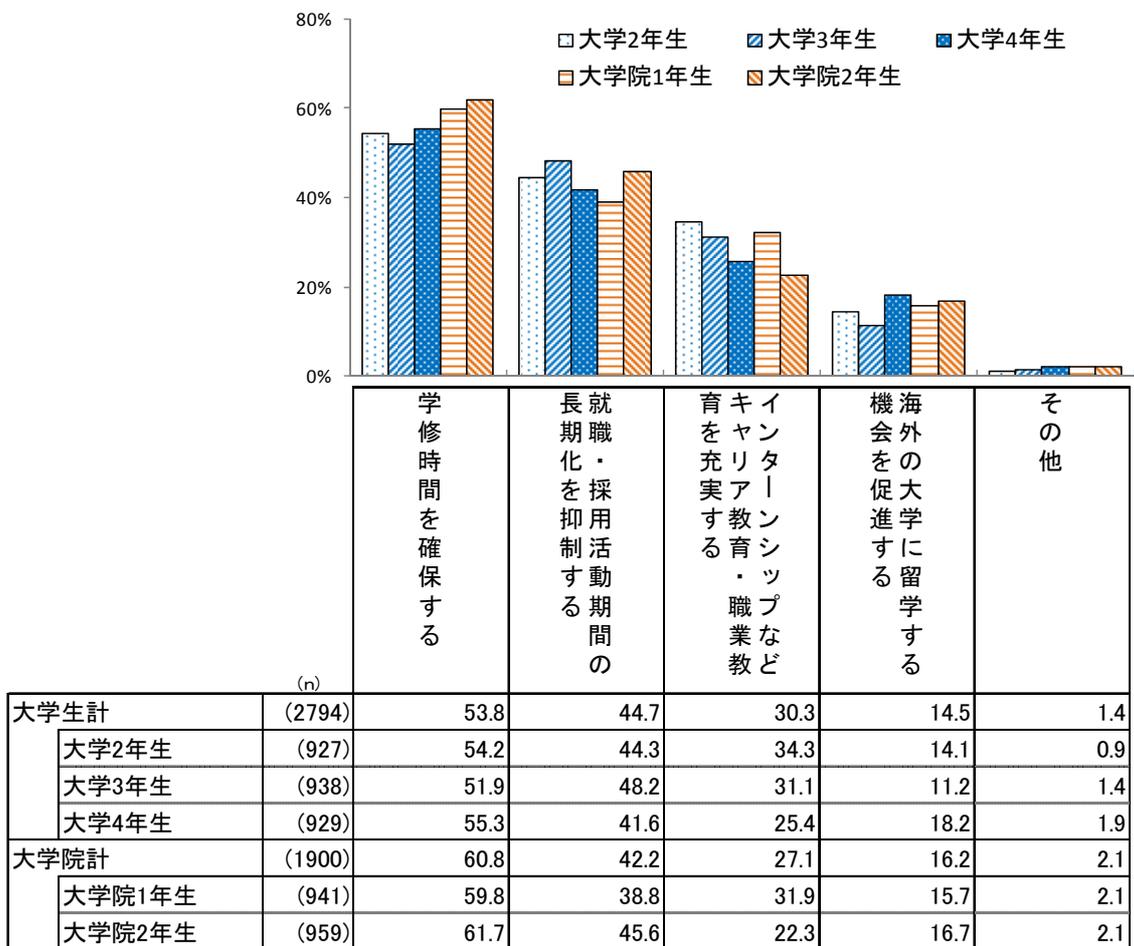
(4) 就職・採用活動開始時期変更の目的に対する関心

就職・採用活動開始時期変更の4つの目的のうち、関心のあるものは、高いものから順に「学修時間を確保する」、「就職・採用活動期間の長期化を抑制する」、「インターンシップなどキャリア教育・職業教育を充実する」、「海外の大学に留学する機会を促進する」である。

「インターンシップなどキャリア教育・職業教育を充実する」は就職・採用活動開始時期変更後の大学3年生の31%、大学院1年生の32%、「海外の大学に留学する機会を促進する」は大学3年生の11%、大学院1年生の16%が関心を示している。

Q16. 平成27(2015)年度卒業・修了予定者(現在の大学3年生等)から就職・採用活動開始時期を変更する目的のうち、関心があるものを全てお選びください。(いくつでも)

図2-4 就職・採用活動開始時期変更の目的に対する関心



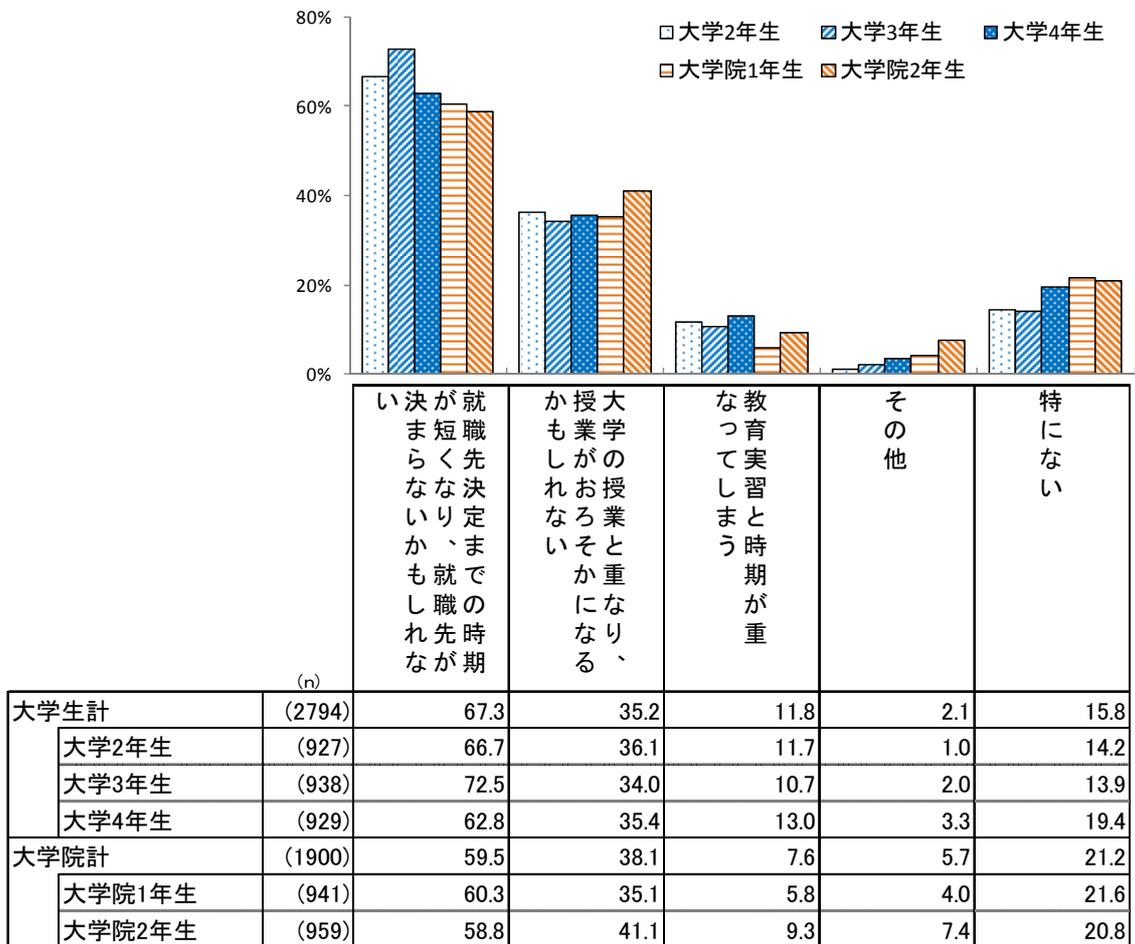
※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

(5) 就職・採用活動開始時期変更による不安

就職・採用活動開始時期の変更にあたり、大学3年生の73%、大学院1年生の60%が「就職先決定までの期間が短くなり、就職先が決まらないかもしれない」と不安を感じている。このことから、卒業までのマッチング支援を強化することが一層重要になると考えられる。他に、「大学の授業と重なり、授業がおろそかになるかもしれない」という不安も感じている。不安が「特にない」は大学3年生の14%、大学院1年生の22%で、大半の学生は何らかの不安を感じている。

Q17. 就職・採用活動開始時期変更にあたり、不安に思っていることは何ですか。特に不安に思えることを最大3つまでお選びください。(3つまで) ※就職活動を終えた人は、ご自身の活動時期が変更した場合を想定してお答えください。

図 2-5 就職・採用活動開始時期変更による不安



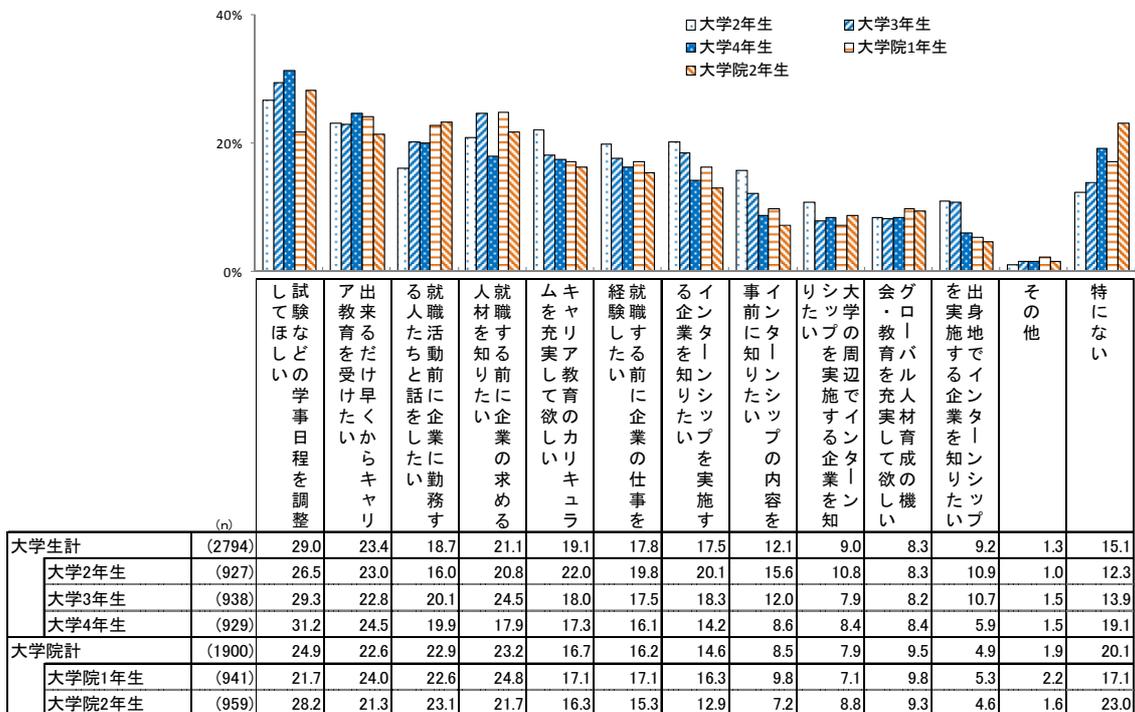
※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

(6) 就職・採用活動開始時期変更に対して学校や行政等から支援して欲しいこと

就職・採用活動開始時期の変更にあたり、学校や行政等からして欲しい支援の上位に挙げられたものは「試験などの学事日程を調整して欲しい」、「出来るだけ早くからキャリア教育を受けたい」、「就職活動前に企業に勤務する人たちと話をしたい」、「就職する前に企業の求める人材を知りたい」、「キャリア教育のカリキュラムを充実して欲しい」、「就職前に企業の仕事を体験したい」、「インターンシップを実施する企業を知りたい」などである。

Q18. 就職・採用活動開始時期変更にあたり、学校や行政等にどのような支援をして欲しいと思いますか。特に重視するものを最大3つまでお選びください。(3つまで) ※就職活動を終了した人は、ご自身の活動時期が変更した場合を想定してお答えください。

図 2-6 就職・採用活動開始時期変更に対して学校や行政等から支援して欲しいこと



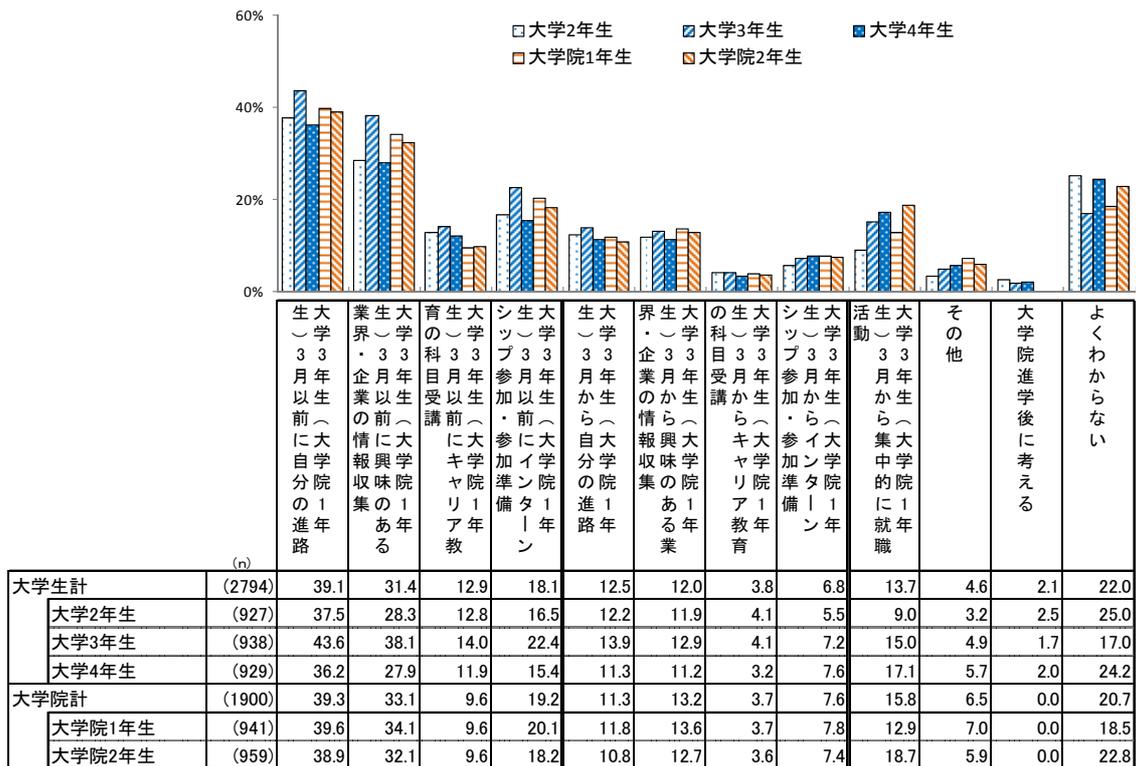
※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

(7) 就職・採用活動開始時期変更に対応した就職活動の取組

就職・採用活動開始時期の変更にあたり、「自分の進路について考える」、「興味のある業界・企業の情報を収集する」、「キャリア教育の科目を受講する」、「インターンシップに参加・参加準備をする」について、大学3年生（大学院1年生）の「3月以前から取り組む」と回答した学生が「3月から取り組む」と回答した学生を上回っている。なかでも、「自分の進路について考える」、「興味のある業界・企業の情報を収集する」は「3月以前から取り組む」の回答の割合が高い。

Q19. 平成27（2015）年度卒業・修了予定者（現在の大学3年生等）から就職・採用活動開始時期が変更になることで、あなたはどのように就職活動に取り組みたいと思いますか。（いくつでも）※就職活動を終えた人は、ご自身の活動時期が変更した場合を想定してお答えください。

図 2-7 就職・採用活動開始時期変更に対応した就職活動の取組



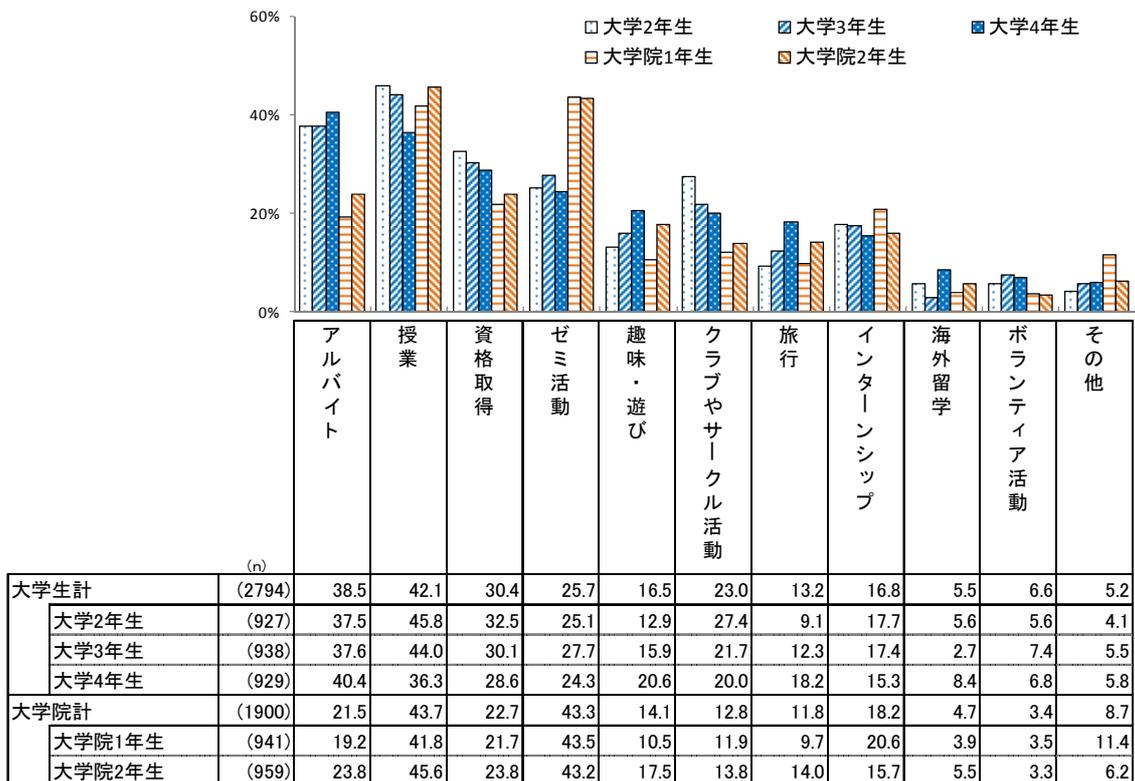
(8) 就職・採用活動開始時期変更による空いた期間の活用方法

就職・採用活動開始時期変更にあたり、「時期変更によって空いた期間」の有効活用として「アルバイト」、「授業」、「資格取得」、「ゼミ活動」、「趣味・遊び」、「クラブやサークル活動」、「旅行」、「インターンシップ」などが挙げられている。

「授業」、「ゼミ活動」、「資格取得」など就職・採用活動開始時期変更の目的に沿った活用を考えている学生が高い。

Q20. 平成 27 (2015) 年度卒業・修了予定者 (現在の大学 3 年生等) から就職・採用活動開始時期が変更になります。あなたは「時期変更によって空いた期間」をどのようなことに有効活用しようと思いませんか。特に優先度が高いものを最大 3 つまでお選びください。(3 つまで) ※就職活動を終えた人は、ご自身の活動時期が変更した場合を想定してお答えください。

図 2-8 就職・採用活動開始時期変更による空いた期間の活用方法



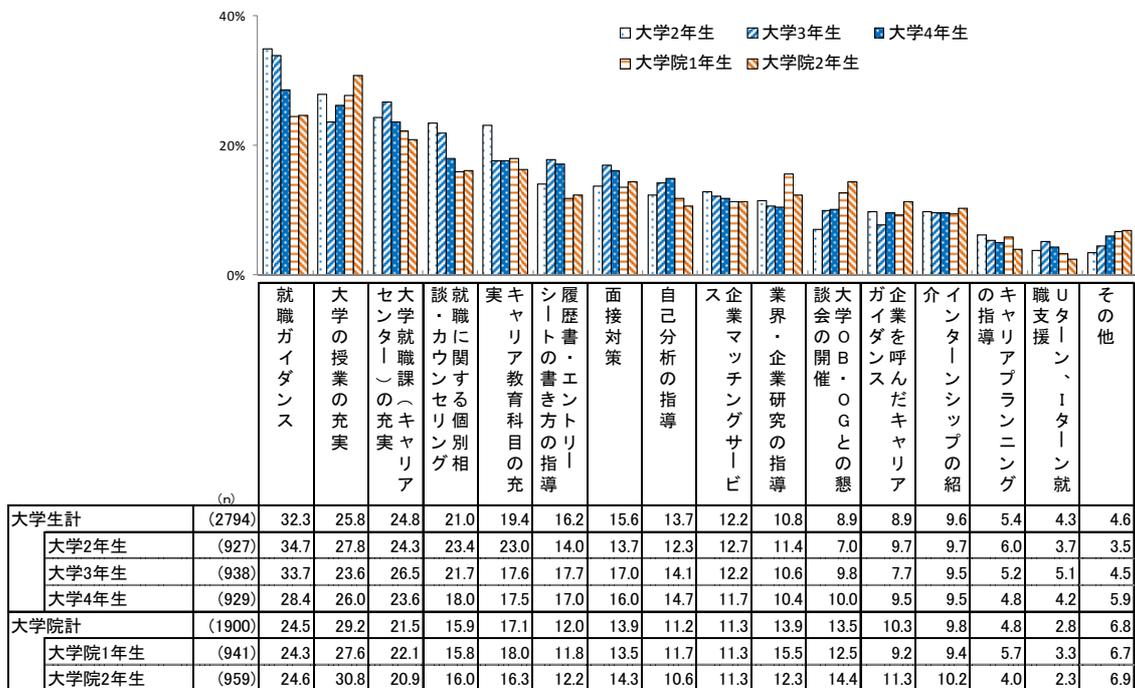
※大学 4 年生の回答数が多い選択肢順に並べている

(9) 就職・採用活動開始時期変更による大学に充実して欲しいこと

就職・採用活動開始時期の変更にあたり、大学に充実して欲しいことは、「就職ガイダンス」、「大学の授業の充実」、「大学就職課（キャリアセンター）の充実」、「就職に関する個別相談・カウンセリング」、「キャリア教育科目の充実」、「履歴書・エントリーシートの書き方の指導」などである。大学院生は大学生よりも「大学の授業の充実」を求める学生が多い。

Q21. あなたは平成 27（2015）年度卒業・修了予定者（現在の大学 3 年生等）から就職・採用活動開始時期が変更になることで、大学に充実して欲しいことがありますか。特に重視するものを最大 3 つまでお選びください。（3 つまで）※就職活動を終えた人は、ご自身の活動時期が変更した場合を想定してお答えください。

図 2-9 就職・採用活動開始時期変更による大学に充実して欲しいこと



※大学 4 年生の回答数が多い選択肢順に並べている

### 3) 就職に向けての準備、意識変化等について

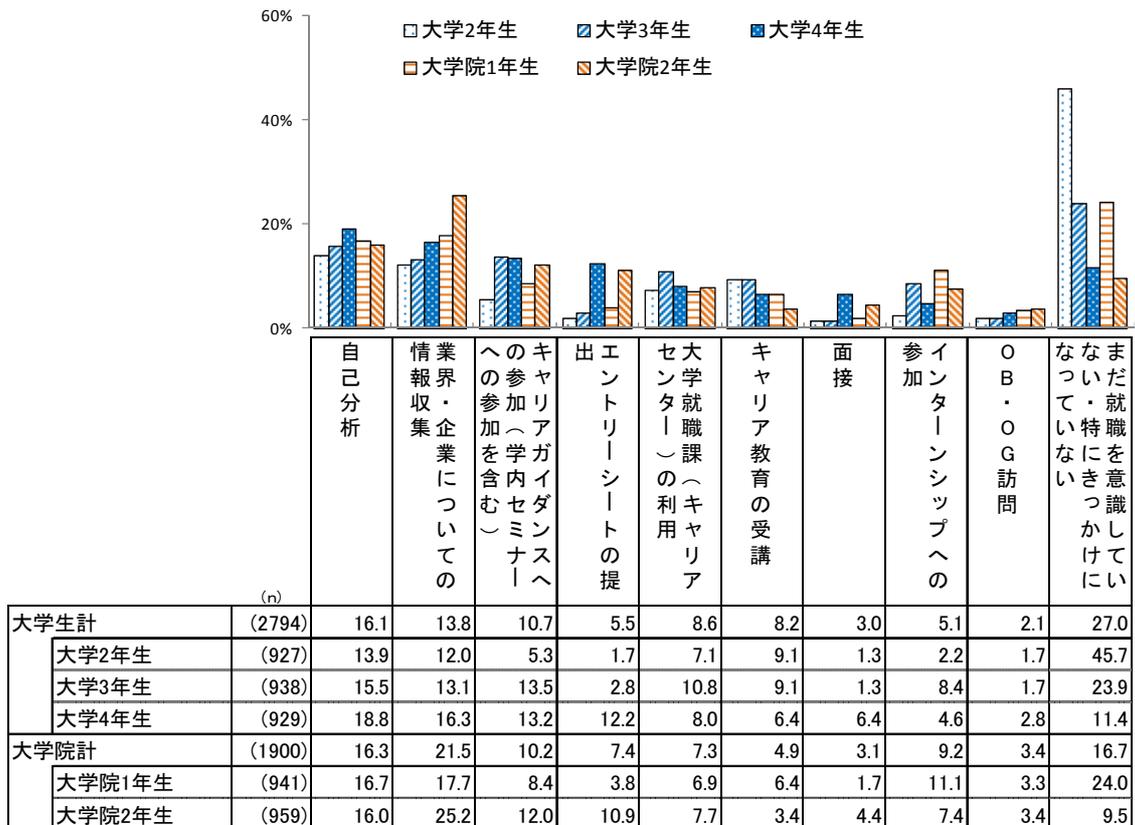
#### (1) 就職を意識するきっかけとなった取組

就職を意識するきっかけとなった取組は、大学4年生は「自己分析」、「業界・企業についての情報収集」、「キャリアガイダンスへの参加」、「エントリーシートの提出」などである。大学院2年生は「業界・企業についての情報収集」、「自己分析」、「エントリーシートの提出」などである。大学3年生は「自己分析」、「キャリアガイダンスへの参加」、「業界・企業についての情報収集」、「大学就職課の利用」を、大学院1年生は「業界・企業についての情報収集」、「自己分析」、「インターンシップへの参加」を挙げている。

他方、大学3年生や大学院1年生の約1/4、大学2年生の約半数は「まだ就職を意識していない・特にきっかけになっていない」と回答している。

Q22. あなたが就職を意識するきっかけとなった取り組みは何だと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

図 3-1 就職を意識するきっかけとなった取組



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

(2) 就職を意識するきっかけとなった取組を行った学年

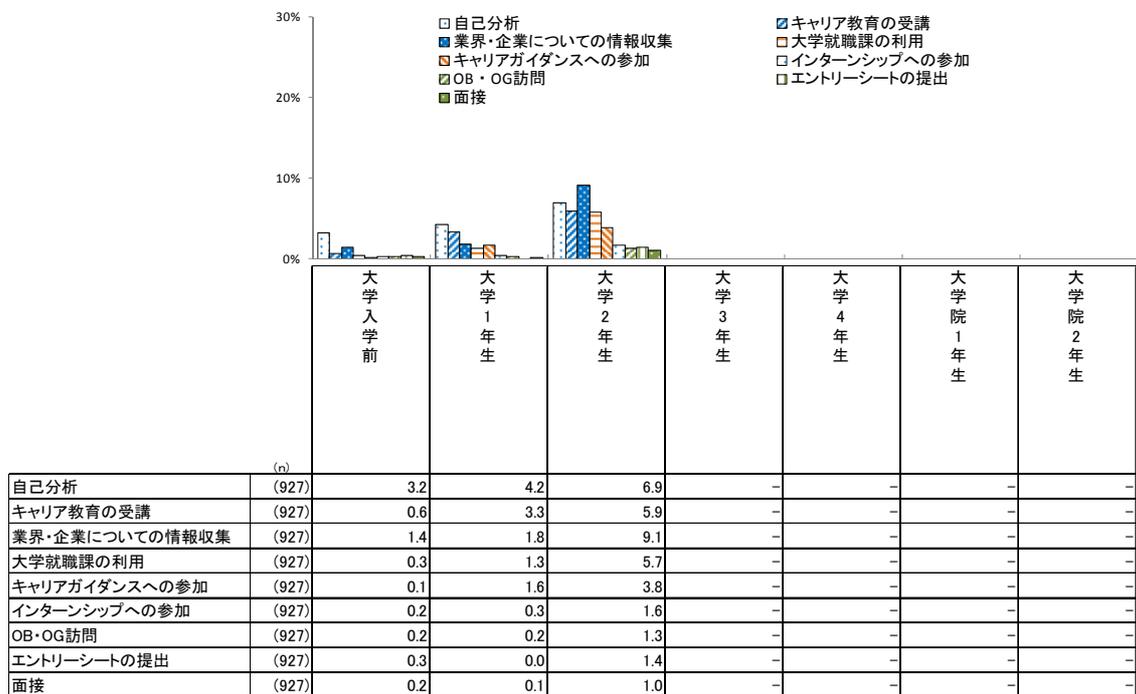
ア 大学2年生の回答

大学2年生の約半数が就職を意識しており、そのきっかけになった取組は主に大学2年生に行っている。

一部の学生は、大学入学前や大学1年生に「自己分析」を行って就職を意識するようになっている。

Q22-1. あなたが就職を意識するきっかけとなった取り組みに、いつ取組みましたか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)

図 3-2-1 就職を意識するきっかけとなった取組 (大学2年生)

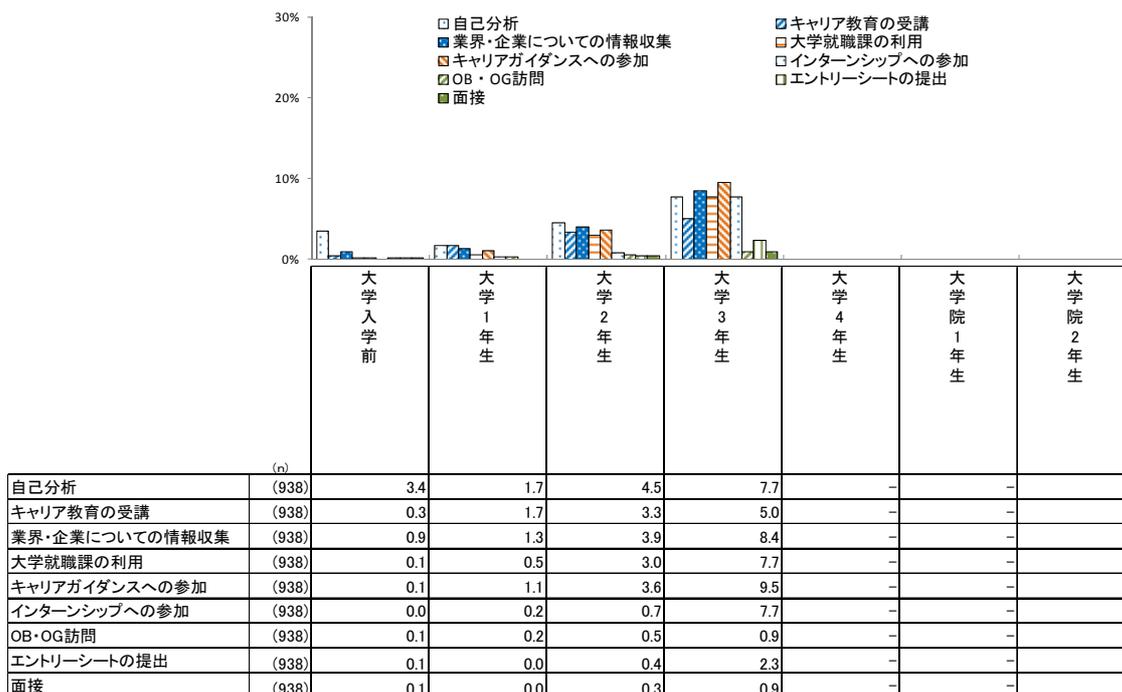


※基数は大学2年生

## イ 大学3年生の回答

大学3年生の3/4が就職を意識しており、そのきっかけとなった取組を主に大学3年生に行っている。一部の年生は「自己分析」、「キャリア教育の受講」、「業界・企業についての情報収集」、「大学就職課の利用」を大学2年生に行い、就職を意識するきっかけになったと回答している。

図 3-2-2 就職を意識するきっかけとなった取組（大学3年生）

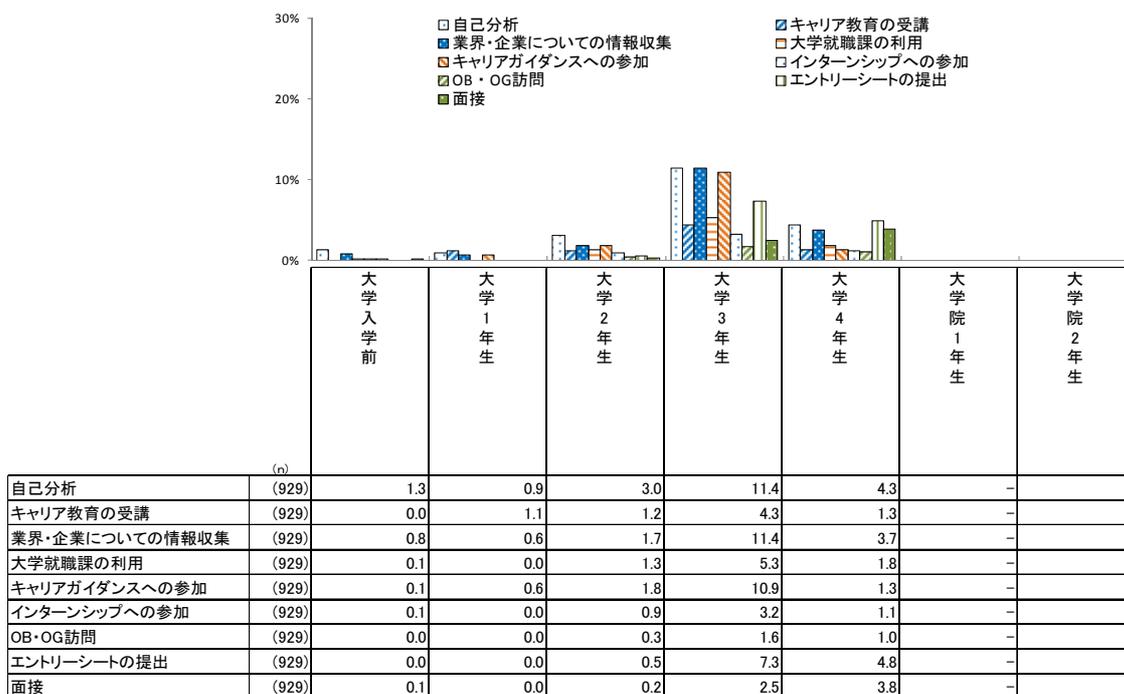


※基数は大学3年生

## ウ 大学4年生の回答

大学4年生が就職を意識したきっかけとなった取組は、主に大学3年生に取り組んでいる。一部の学生は大学2年生や大学4年生の時の取組がきっかけになったと回答している。

図 3-2-3 就職を意識するきっかけとなった取組（大学4年生）

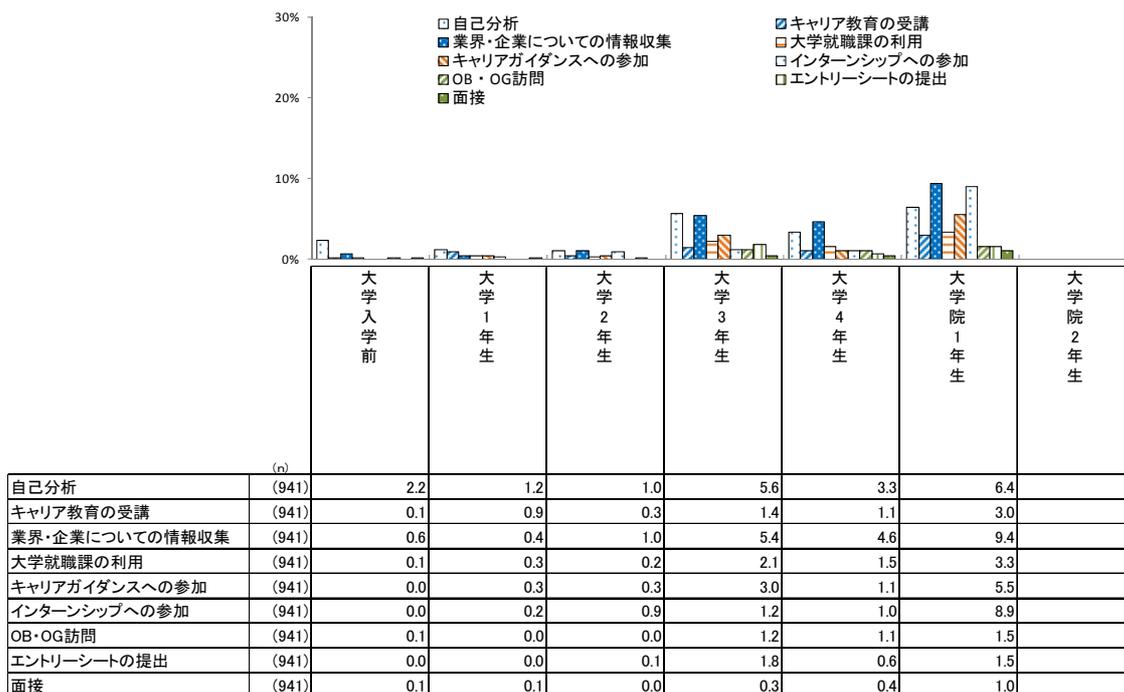


※基数は大学4年生

エ 大学院 1 年生の回答

大学院 1 年生が就職を意識したきっかけになった取組は、主に大学院 1 年生に取り組んでいる。一部の学生は、大学 3 年生、大学 4 年生の時の取組がきっかけになったと回答している。

図 3-2-4 就職を意識するきっかけとなった取組（大学院 1 年生）

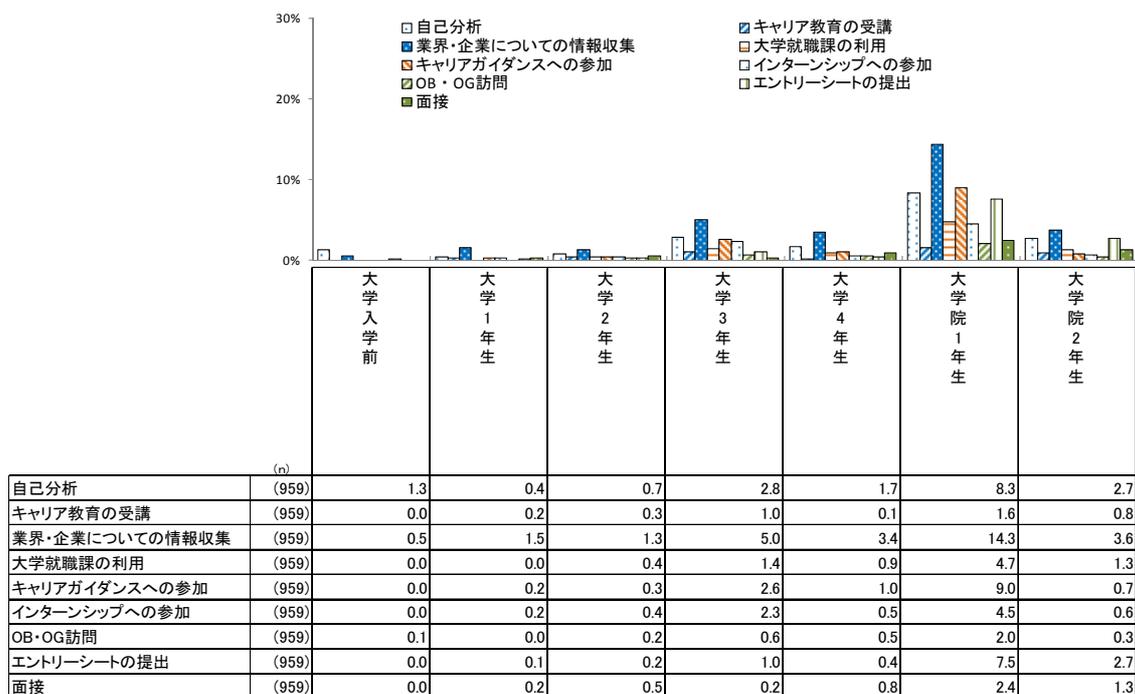


※基数は大学院 1 年生

## オ 大学院 2 年生の回答

大学院 2 年生が就職を意識したきっかけとなった取組は、主には大学院 1 年生に取り組んでいる。一部の学生は、大学 3 年生、大学 4 年生、大学院 2 年生の時の取組がきっかけになったと回答している。

図 3-2-5 就職を意識するきっかけとなった取組（大学院 2 年生）



※基数は大学院 2 年生

#### 4) 学校での教育や授業について

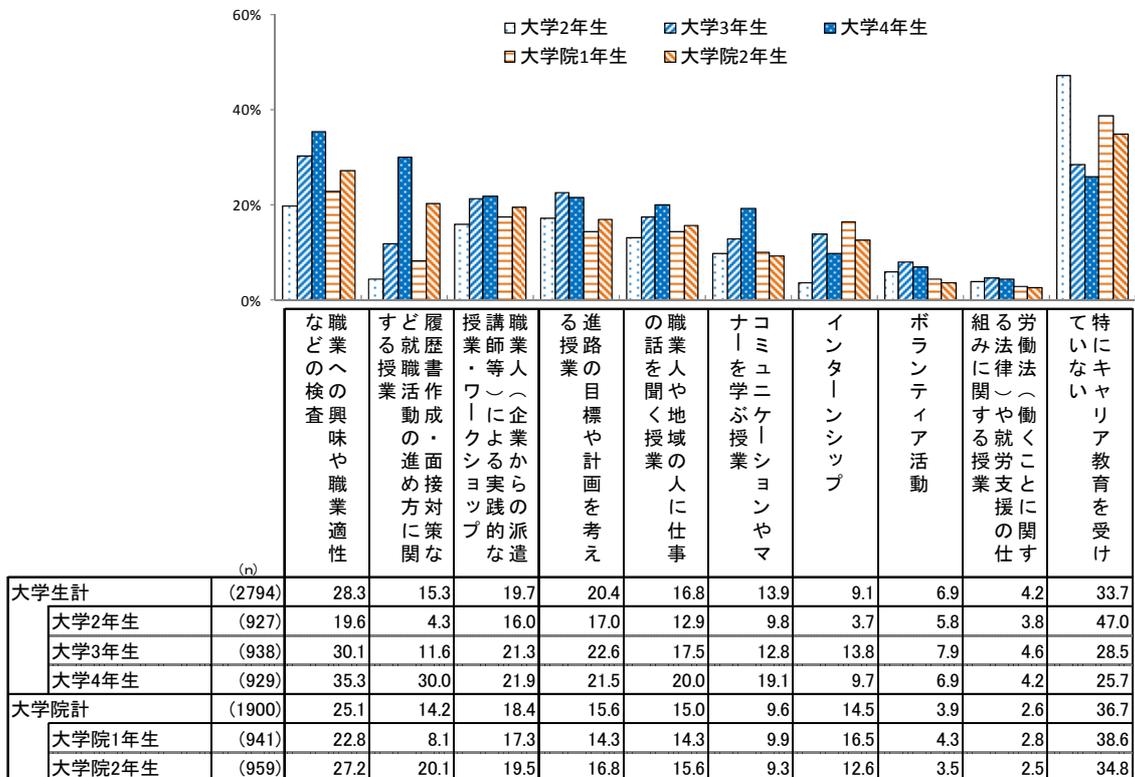
##### (1) 大学/大学院で受けたキャリア教育に関する行事・セミナー・授業

キャリア教育の受講は、大学4年生が74%、大学3年生が72%、大学2年生が53%、大学院2年生が65%、大学院1年生が61%である。

大学/大学院で受けたキャリア教育に関する行事・セミナー・授業の内容として、大学4年生は「職業への興味や職業適性などの検査」、「履歴書作成・面接対策など就職活動の進め方に関する授業」、「職業人による実践的な授業・ワークショップ」、「進路の目標や計画を考える授業」、「職業人や地域の人に仕事の話聞く授業」などを挙げている。大学3年生は大学4年生よりも「履歴書作成・面接対策など就職活動の進め方に関する授業」の受講は低い、「インターンシップ」の受講は高くなっている(14%)。大学院2年生は「コミュニケーションやマナーを学ぶ授業」の受講は低く、「インターンシップ」の受講が高い点を除くと、それ以外は大学4年生と似通った内容を受講している。

Q23. あなたが大学/大学院で受けたキャリア教育に関する行事・セミナー・授業はどのようなものですか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)

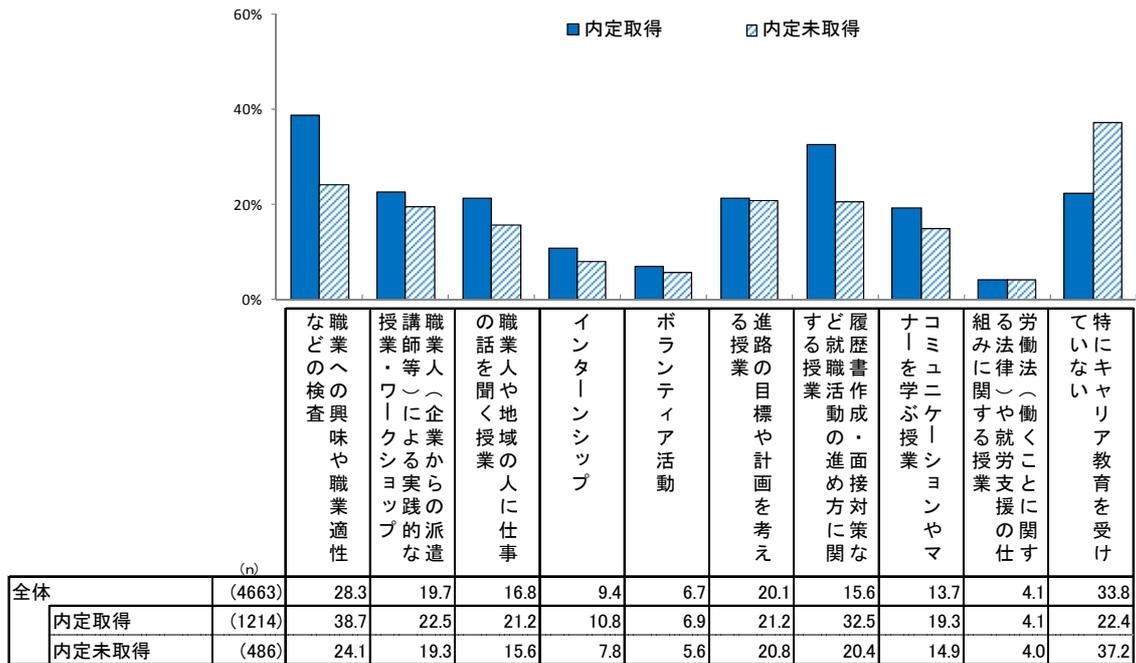
図 4-1-1 大学/大学院で受けたキャリア教育に関する行事・セミナー・授業



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

内定取得者は未取得者よりも、キャリア教育に関する行事・セミナー・授業を受講する割合が高い。中でも「職業への興味や職業適性などの検査」、「履歴書作成・面接対策など就職活動の進め方に関する授業」の受講率が高い。

図 4-1-2 大学/大学院で受けたキャリア教育に関する行事・セミナー・授業：内定の有無



(2) キャリア形成（職業選択・社会での活躍）に対するキャリア教育の有効性

キャリア教育を受講した学生のうち、キャリア形成（職業選択・社会での活躍）が「役に立った」と回答した大学生、大学院生はともに 67%であり、大半は役に立ったと考えている。

Q24. キャリア教育は、あなたのキャリア形成（職業選択・社会での活躍）に役立ったと思いますか。

図 4-2-1 キャリア形成（職業選択・社会での活躍）に対するキャリア教育の有効性

	(n)	(% )				役立った計	役立たなかった計
		役に立った	まあ役に立った	どちらともいえ	あまり役に立たなか		
大学生計	(1852)	15.8	50.9	26.5	5.0	66.7	6.9
大学2年生	(491)	14.1	50.5	31.2	3.3	64.6	4.3
大学3年生	(671)	16.7	51.1	26.8	3.7	67.8	5.4
大学4年生	(690)	16.1	51.0	22.8	7.5	67.1	10.1
大学院計	(1203)	15.7	51.1	25.5	6.0	66.8	7.6
大学院1年生	(578)	17.3	52.8	23.4	6.1	70.1	6.6
大学院2年生	(625)	14.2	49.6	27.5	5.9	63.8	8.6

※基数は、大学/大学院でキャリア教育受講者

内定取得者は未取得者よりも、キャリア形成（職業選択・社会での活躍）に対するキャリア教育が「役に立った」と評価する割合が高い。

図 4-2-2 キャリア形成（職業選択・社会での活躍）に対するキャリア教育の有効性

	(n)	(% )				役立った計	役立たなかった計
		役に立った	まあ役に立った	どちらともいえ	あまり役に立たなか		
全体	(4663)	15.8	50.9	26.3	5.2	66.7	7.0
内定取得	(1214)	16.9	52.3	20.2	7.4	69.2	10.5
内定未取得	(486)	12.8	46.5	32.3	7.2	59.3	8.4

大学/大学院で受けたキャリア教育に関する行事・セミナー・授業は、「労働法（働くことに関する法律）や就労支援の仕組みに関する授業」は相対的に「役に立った」の割合が低い、それ以外は7割前後が「役に立った」と回答している。

Q24. キャリア教育は、あなたのキャリア形成（職業選択・社会での活躍）に役立ったと思いますか。

図 4-2-3 キャリア形成（職業選択・社会での活躍）に対するキャリア教育の有効性：大学/大学院で受けたキャリア教育に関する行事・セミナー・授業（Q23）

	(n)	%					役立った計	役立たなかった計
		役に立った	まあ役に立った	どちらともいえない	あまり役に立たなかった	役に立たなかった		
インターンシップ	(439)	20.9	54.7	21.6	2.3	4.4	75.7	2.8
コミュニケーションやマナーを学ぶ授業	(640)	20.4	48.1	25.3	4.9	1.3	68.5	6.3
職業への興味や職業適性などの検査	(1318)	19.9	49.0	24.0	4.8	2.3	69.0	7.1
職業人（企業からの派遣講師等）による実践的な授業・ワークショップ	(917)	19.5	56.8	18.6	4.5	1.6	76.3	5.1
職業人や地域の人に仕事の話を聞く授業	(782)	18.9	52.2	21.9	5.9	1.1	71.1	7.0
進路の目標や計画を考える授業	(936)	16.6	51.2	26.4	4.4	1.3	67.9	5.7
履歴書作成・面接対策など就職活動の進め方に関する授業	(729)	16.3	54.0	22.2	5.8	1.7	70.4	7.4
ボランティア活動	(310)	15.3	53.9	25.1	4.6	1.1	69.2	5.7
労働法（働くことに関する法律）や就労支援の仕組みに関する授業	(190)	15.2	44.3	31.1	6.1	3.3	59.5	9.4

※基数は、大学/大学院でキャリア教育受講者

※「役に立った」の回答割合の高い順に並べている

※ウエイトバック集計の結果

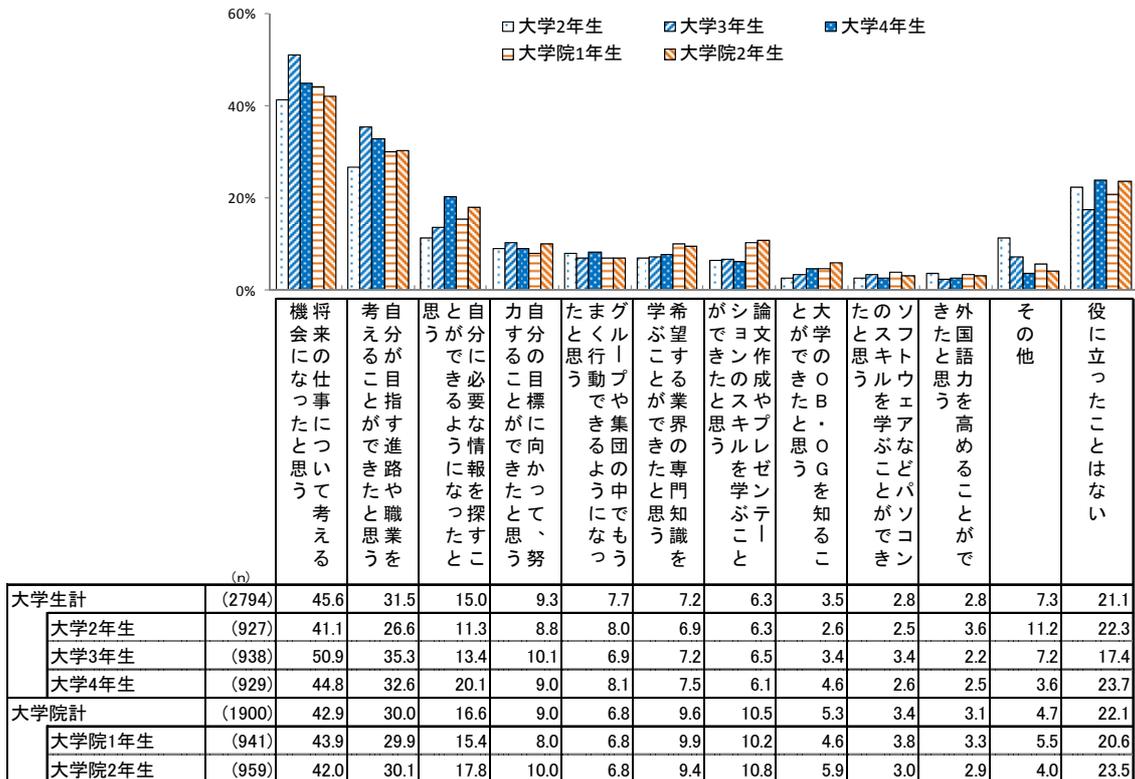
(3) 授業・講座がキャリア形成（職業選択・社会での活躍）に役立ったこと

大学生、大学院生の約8割がキャリア教育を含めた授業・講座がキャリア形成（職業選択・社会での活躍）に役立ったと考えている。

役に立った点として、「将来の仕事について考える機会になったと思う」が最も高く、次いで「自分が目指す進路や職業を考えたことができたと思う」、「自分に必要な情報を探ることができるようになったと思う」である。学年に関わらずこの3つを主に役立った点として挙げて、自分の将来を考えることに役立ったと評価している。

Q25. キャリア教育を含めた大学/大学院の授業・講座を受けて、どのような点があなたのキャリア形成（職業選択、社会での活躍）に役に立ったと思いますか。特に役に立ったものを最大3つまでお選びください。（3つまで）

図 4-3 授業・講座がキャリア形成（職業選択・社会での活躍）に役立ったこと



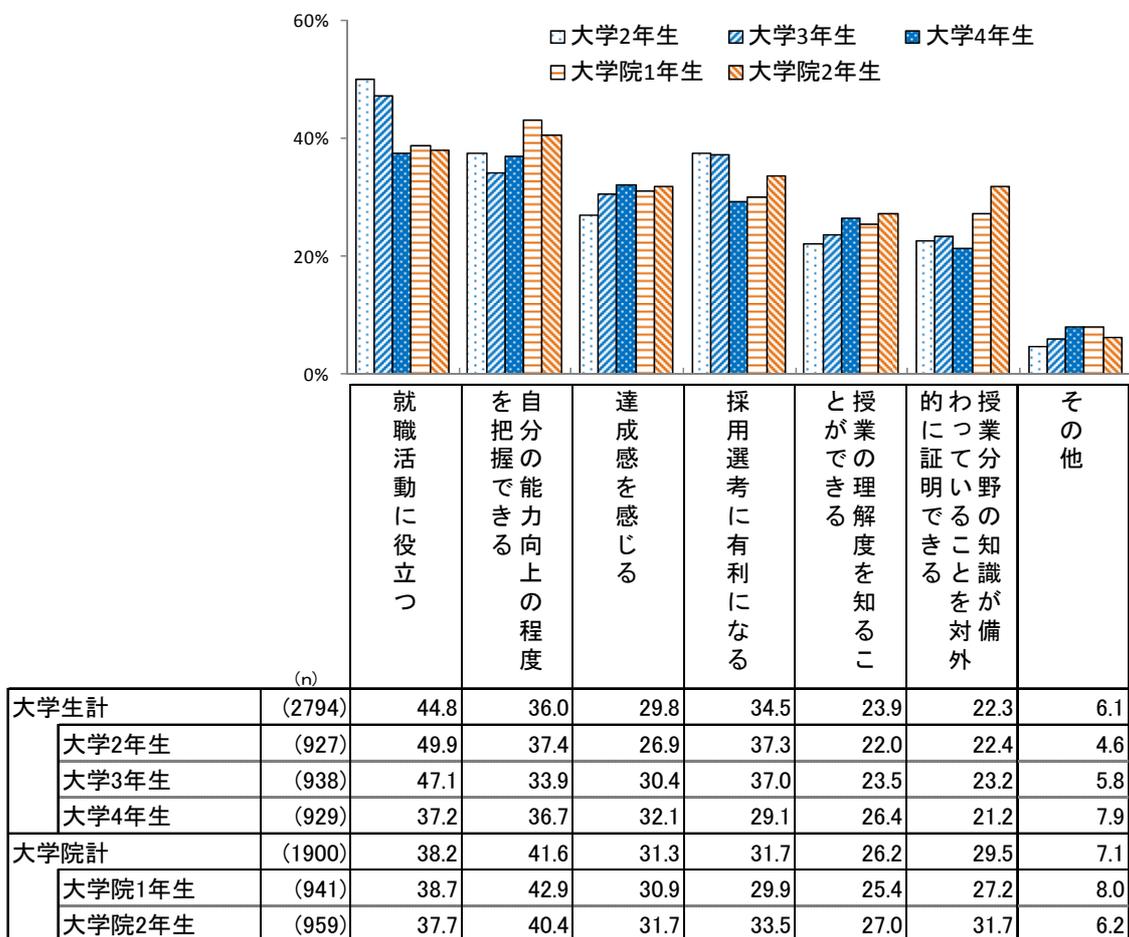
※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

(4) 大学で良い成績を残す意味

大学で良い成績を残す意味について、大学4年生は「就職活動に役立つ」、「自分の能力向上の程度を把握できる」、「達成感を感じる」、「採用選考に有利になる」などと回答している。大学3年生は大学4年生よりも「就職活動に役立つ」、「採用選考に有利になる」と就職と結びつける傾向がある。大学院生は大学生よりも「自分の能力向上の程度を把握できる」、「授業の理解度を知ることができる」、「授業分野の知識が備わっていることを対外的に証明できる」と習熟度の指標として見る傾向がある。

Q26. 大学で良い成績を残すことにどんな意味があると思いますか。あてはまるものを全てお選びください。(いくつでも)

図 4-4 大学で良い成績を残す意味



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

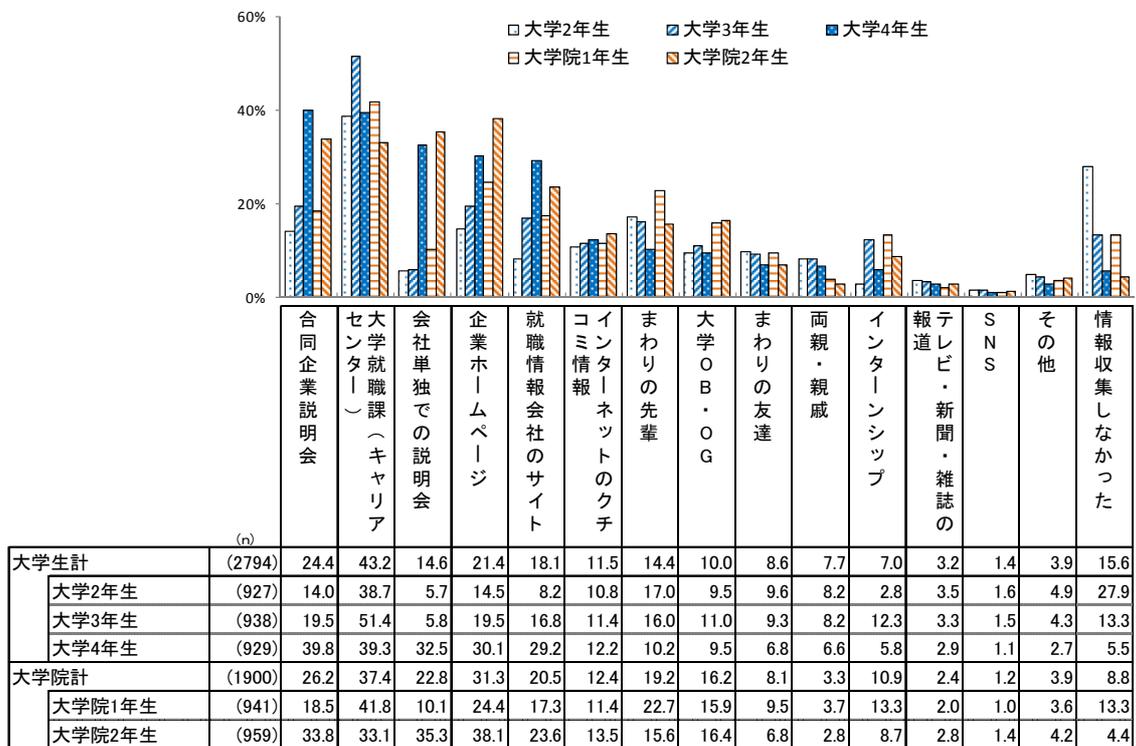
## 5) 業界・企業の情報収集について

### (1) 企業を選択時の情報収集手段

企業を選択するための情報を、大学4年生は「合同企業説明会」、「大学就職課」、「会社単独での説明会」、「企業ホームページ」、「就職情報会社のサイト」などから収集している。大学院2年生も同様の情報源から収集している。大学3年生や大学院1年生は主に「大学就職課」から情報を得ている。

Q27. 企業を選択するための情報をどのような手段で収集しましたか。特に意味のあったと思う手段を最大3つまでお選びください。(3つまで)

図 5-1-1 企業を選択時の情報収集手段



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

「大学就職課」の利用率が高いのは「北海道」、低いのは「四国」、「九州」、「中国」である。

内定取得者は内定未定者よりも「合同企業説明会」、「会社単独での説明会」、「企業ホームページ」、「就職情報会社のサイト」の利用率が高い。

図 5-1-2 企業を選択時の情報収集手段：大学所在地

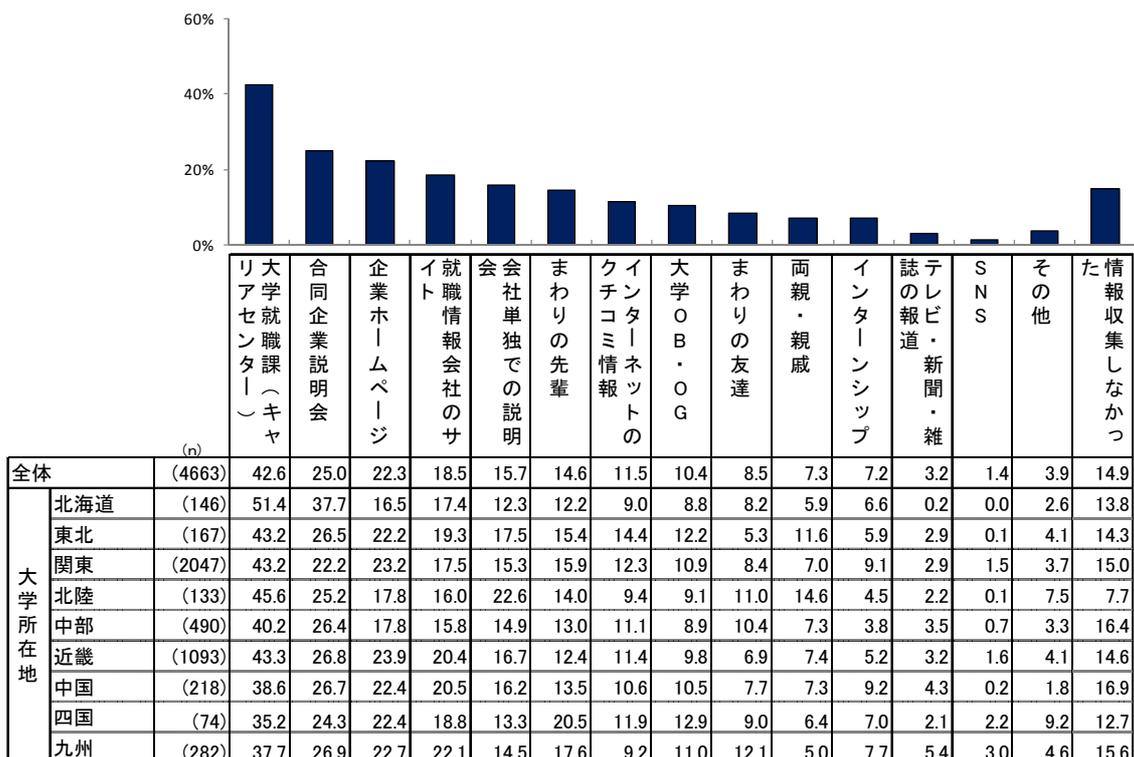
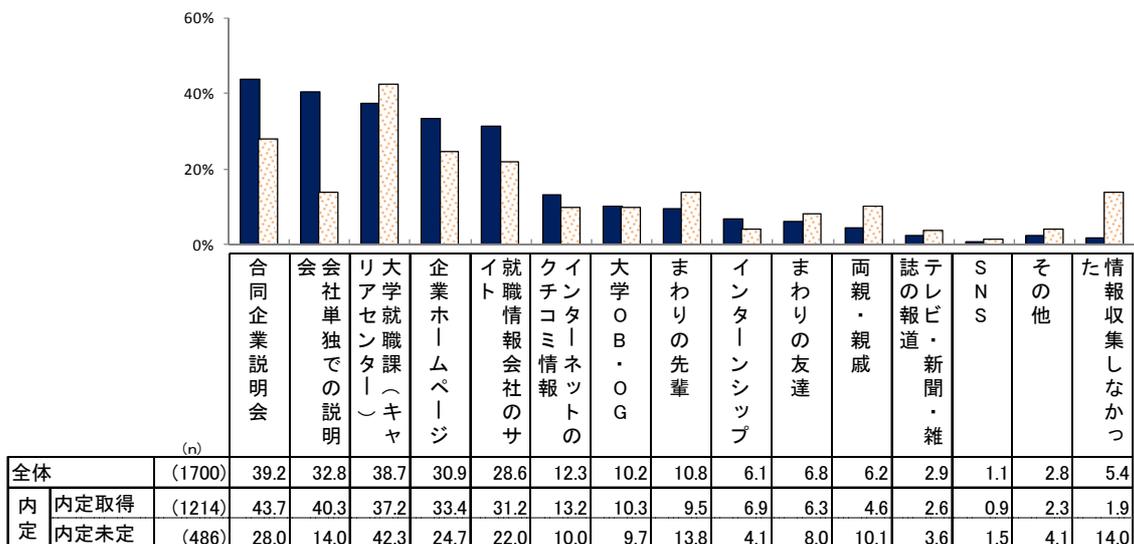


図 5-1-3 企業を選択時の情報収集手段：内定の有無



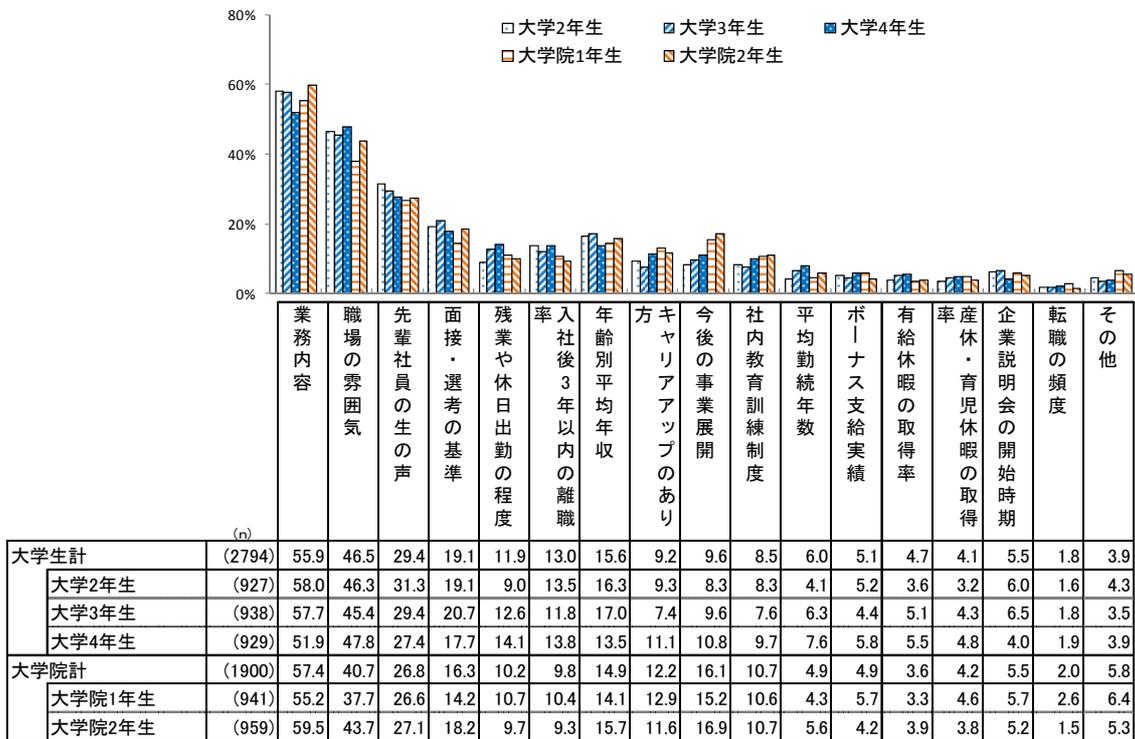
※内定取得者の回答数が多い選択肢順に並べている

(2) 企業の選択時に知りたい情報

企業を選択するために知りたい情報として、「業務内容」、「職場の雰囲気」を挙げる学生が多い。それ以外に「先輩社員の生の声」、「面接・選考の基準」、「残業や休日出勤の程度」、「入社3年以内の離職率」、「年齢別平均年収」などである。また、大学院生は「今後の事業展開」にも関心を示している。

Q28. あなたは企業を選択するために、どのような情報を知りたいと思いますか。特に知りたいと思う情報を最大3つまでお選びください。(3つまで)

図 5-2 企業の選択時に知りたい情報



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

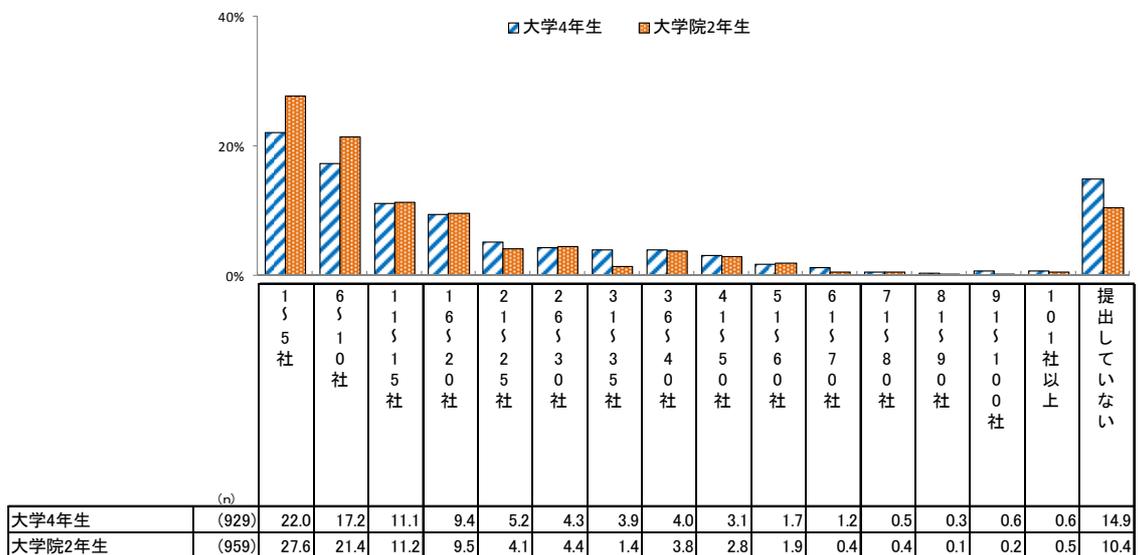
## 6) エントリーシートについて

### (1) エントリーシート提出社数

エントリーシートを提出した企業数は「1～5社」が最も多く、大学4年生の22%、大学院2年生の28%が該当する。次いで「6～10社」、「11～15社」、「16～20社」で、提出社数が多くなるにしたがって学生の割合が少なくなる。1～20社まで合わせると、大学4年生の6割、大学院生の7割を占める。

Q29. あなたはエントリーシートを何社に提出しましたか。※ここでいうエントリーシートの提出とは、企業や官公庁などの採用選考に参加するために応募シートを提出することを指します。就職情報会社のサイト等への登録のみとは異なります。

図 6-1 エントリーシート提出社数



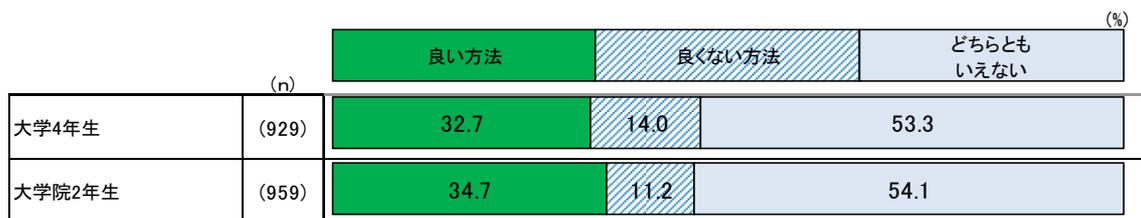
※基数は、大学4年生、大学院2年生

(2) エントリーシートの利用について

エントリーシートを利用する就職活動について、大学4年生の33%、大学院2年生の35%が「良い方法」と回答し、「良くない方法」を上回っている。ただし、約半数は「どちらともいえない」と評価を保留している。

Q30. あなたはエントリーシートを利用する就職活動に対して、どのようにお考えですか。

図 6-2 エントリーシートの利用について



※基数は、大学4年生、大学院2年生

7) 就職活動の結果について

(1) 内定数について

就職活動の結果、内定を受けたのは、大学4年生は70%、大学院2年生は81%であった。内定獲得社数は「1社」、「2～3社」が中心である。

Q32. あなたは就職活動の結果として、何社から内定をもらいましたか。

図 7-1 内定数について

	(n)	1社					2～3社		4～5社		それ以上		内定なし		内定あり計	内定なし
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)				
大学4年生	(929)	32.5	32.1	4.7	1.1	29.6	70.4	29.6								
大学院2年生	(959)	36.7	35.6	7.0	0.7	19.1	80.9	19.1								

※基数は、大学4年生、大学院2年生

(2) 就職活動の結果に対する評価について

就職活動の結果が「希望通り」と考える大学4年生は31%、大学院2年生は37%であり、「まあ希望通り」を合わせると、大学4年生は66%、大学院2年生は76%が希望通りと考えている。

Q33. あなたの就職活動の結果は、ご自身の希望通りでしたか。

図 7-2 就職活動の結果に対する評価について

	(n)	希望通り				希望通りでない	
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
大学4年生	(929)	30.5	35.7	14.2	19.6	66.2	33.8
大学院2年生	(959)	36.7	39.3	12.1	11.9	76.0	24.0

※基数は、大学4年生、大学院2年生

8) 大学就職課（キャリアセンター）の活用について

(1) 大学就職課（キャリアセンター）の利用回数

大学就職課（キャリアセンター）の利用率は、大学4年生が74%、大学院2年生が65%で、大学3年生が66%、大学2年生が36%、大学院1年生が55%であった。大学生4年生、3年生は大学院生よりも利用率が高い。また両者ともに最終学年に進むにつれて利用率が高くなっている。

利用回数は、「1～2回」と「3～5回」が中心である。

Q34. あなたは大学就職課（キャリアセンター）に何回くらい行きましたか。

図 8-1 大学就職課（キャリアセンター）の利用回数

		(%)					利用あり計	利用なし
		1～2回	3～5回	6～10回	11回以上	利用なし		
大学生計	(2794)	27.2	21.8	6.3	3.4	41.3	58.7	41.3
大学2年生	(927)	23.4	10.4	1.9	0.5	63.8	36.2	63.8
大学3年生	(938)	35.3	25.3	4.1	0.9	34.5	65.5	34.5
大学4年生	(929)	22.9	29.7	12.8	8.8	25.7	74.3	25.7
大学院計	(1900)	27.8	22.3	7.1	2.8	40.1	59.9	40.1
大学院1年生	(941)	27.9	20.2	4.8	1.9	45.2	54.8	45.2
大学院2年生	(959)	27.6	24.4	9.3	3.6	35.0	65.0	35.0

(2) 大学就職課（キャリアセンター）の利用目的

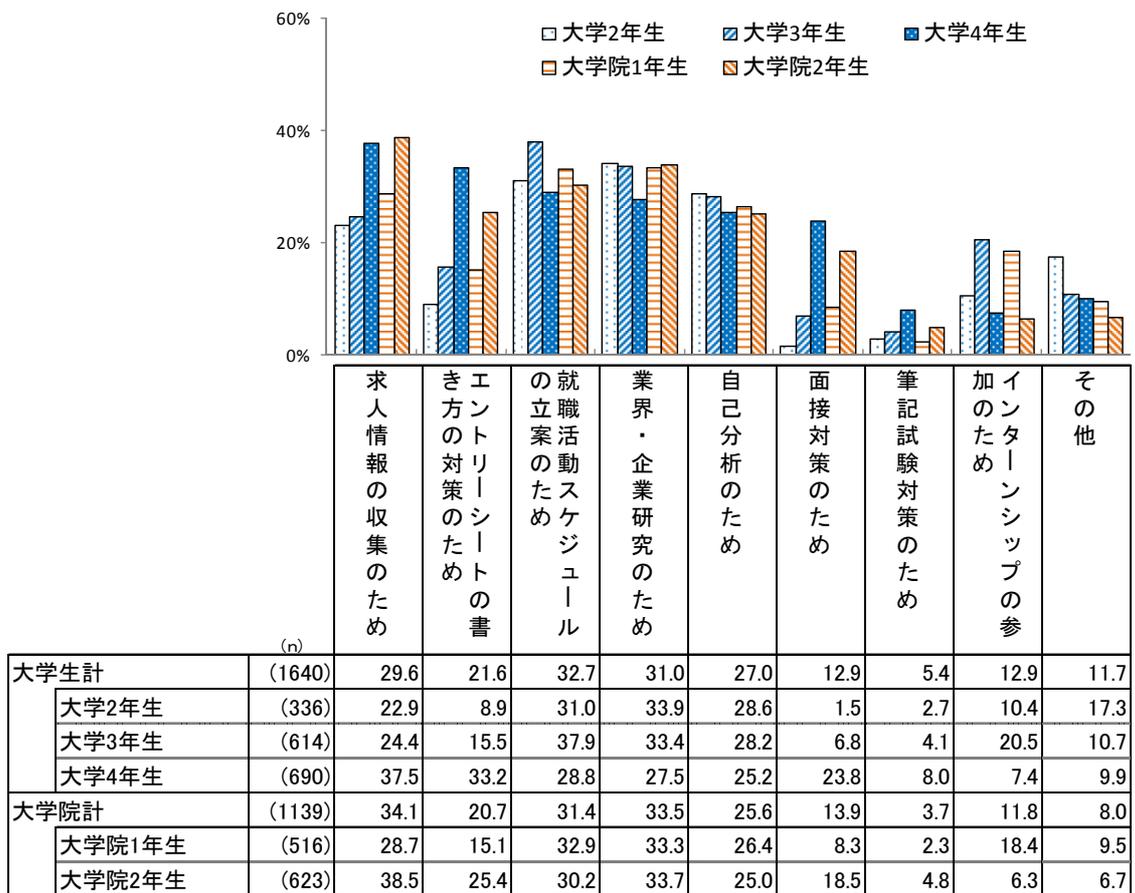
大学就職課（キャリアセンター）を利用する目的は、大学4年生は「求人情報の収集のため」、「エントリーシートの書き方の対策のため」、「就職活動スケジュールの立案のため」、「業界・企業研究のため」、「自己分析のため」などである。大学院2年生は大学4年生と同様の目的から利用している。

大学3年生は「就職活動スケジュールの立案のため」、「業界・企業研究のため」、「自己分析のため」など活動準備を目的としている学生が多い。

大学2年生の利用率は36%に留まっているが、その主な利用目的は「業界・企業研究のため」、「就職活動スケジュールの立案のため」、「自己分析のため」であった。

Q35. あなたは大学就職課（キャリアセンター）をどのような目的で利用しましたか。あてはまるもの全てをお選びください。（いくつでも）

図 8-2-1 大学就職課（キャリアセンター）の利用目的



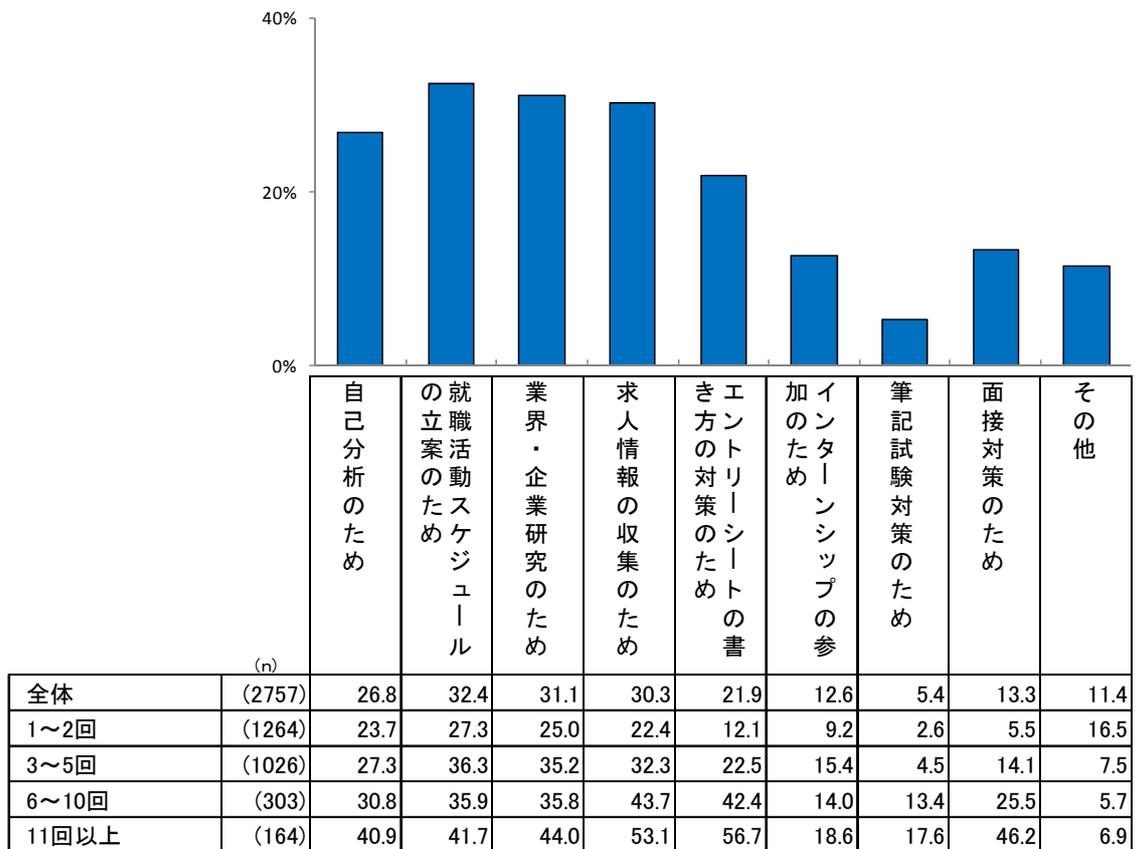
※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

※基数は、大学就職課（キャリアセンター）の利用者

大学就職課（キャリアセンター）の利用回数が1～2回の学生は限られた目的で大学就職課（キャリアセンター）を利用しているが、利用回数が多くなるにしたがって様々な目的で利用している。

Q35. あなたは大学就職課（キャリアセンター）をどのような目的で利用しましたか。あてはまるもの全てをお選びください。（いくつでも）

図 8-2-2 大学就職課（キャリアセンター）の利用目的：大学就職課の利用回数（Q34）



※基数は、大学就職課（キャリアセンター）の利用者

※ウエイトバック集計の結果

9) キャリア教育の一環であるキャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の活用について

(1) キャリア教育の一環であるキャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の利用回数

キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）を利用したのは、大学4年生が78%、大学院2年生が72%、大学3年生が68%、大学2年生が33%、大学院1年生が60%である。大学生4年生、3年生は大学院生よりも利用率が高い。また大学生、大学院生ともに最終学年に進むにつれて利用率が高くなる。

Q36. あなたはキャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）に何回くらい行きましたか。

図 9-1 キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の利用回数

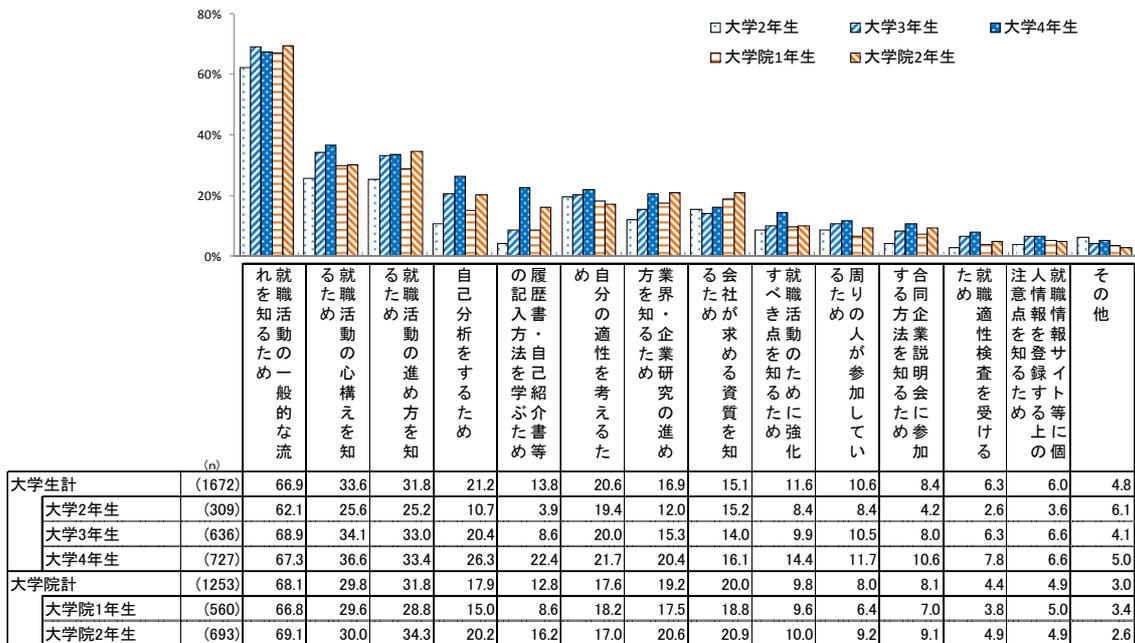
		(%)					参加あり計	参加なし
	(n)	1~2回	3~5回	6~10回	11回以上	参加なし		
大学生計	(2794)	30.8	21.1	5.5	2.5	40.2	59.8	40.2
大学2年生	(927)	23.6	7.9	1.5	0.3	66.7	33.3	66.7
大学3年生	(938)	39.0	22.7	4.5	1.6	32.2	67.8	32.2
大学4年生	(929)	29.6	32.6	10.5	5.5	21.7	78.3	21.7
大学院計	(1900)	36.3	22.6	5.2	1.9	34.1	65.9	34.1
大学院1年生	(941)	37.9	17.5	3.0	1.1	40.5	59.5	40.5
大学院2年生	(959)	34.6	27.5	7.4	2.7	27.7	72.3	27.7

(2) キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の利用目的

キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）を利用する目的として最も高いのは「就職活動の一般的な流れを知るため」で半数以上がこれを目的としている。それ以外に「就職活動の心構えを知るため」、「就職活動の進め方を知るため」、「自己分析をするため」、「履歴書・自己紹介書等の記入方法を学ぶため」、「自分の適性を考えるため」、「業界・企業研究の進め方を知るため」、「会社が求める資質を知るため」などである。大学3年生、大学2年生、大学院1年生が「履歴書・自己紹介書等の記入方法を学ぶため」の回答が低いことを除くと各学年の目的は似通っている。

Q37. あなたはどのような目的でキャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）に参加しましたか。あてはまるもの全てをお選びください。（いくつでも）

図 9-2-1 キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の利用目的



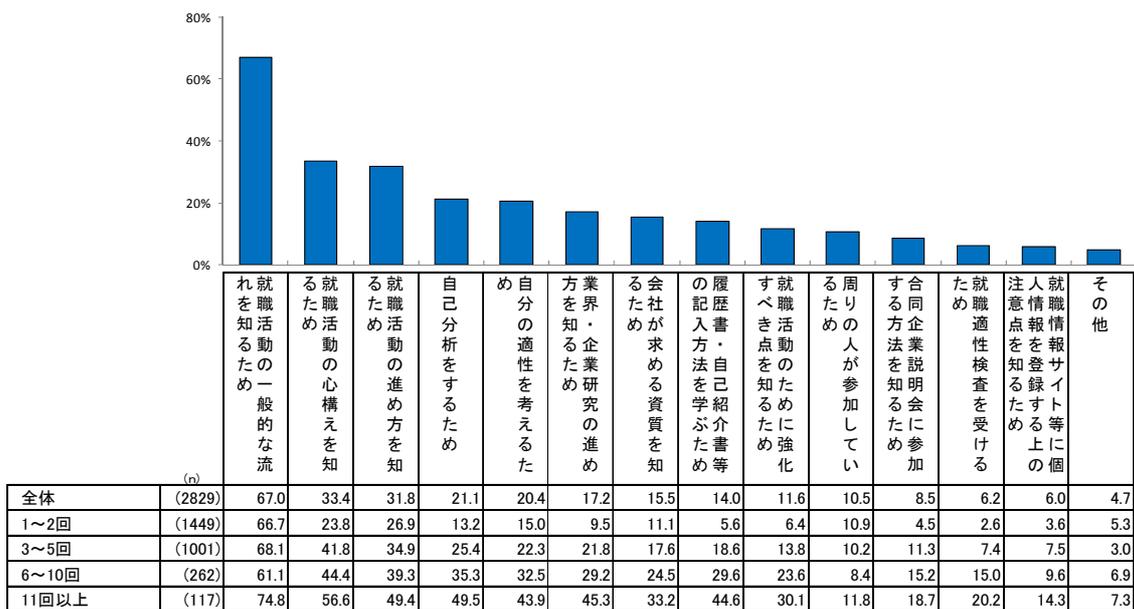
※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

※基数は、キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）利用者

キャリアガイダンスに1～2回参加した学生の参加目的は「就職活動一般的な流れを知るため」に集中しているが、参加回数が多くなるとして様々な目的を持ってキャリアガイダンスに参加している。

Q37. あなたはどのような目的でキャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）に参加しましたか。あてはまるもの全てをお選びください。（いくつでも）

図 9-2-2 キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の利用目的：キャリアガイダンスの利用回数（Q36）



※全体の数値で降順に並び替え

※基数は、キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）利用者

※ウエイトバック集計の結果

(3) キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の有効性

キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）を受けた学生のうち、「役に立った」と回答した大学生は85%、大学院生は83%であった。大学4年生、大学院2年生は他の学年よりも「役に立った」が少なく、「役に立たなかった」が多いなど、やや評価が低くなっている。

Q38. あなたはキャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）がどの程度役に立ったと思いますか。

図 9-3 キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の有効性

	(n)	役に立った (%)				役に立った計	役に立たなかった計
		役に立った	まあ役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった		
大学生計	(1672)	17.3	67.7	12.0	3.0	85.0	15.0
大学2年生	(309)	15.9	76.1	6.5	1.6	91.9	8.1
大学3年生	(636)	19.8	67.8	10.2	2.2	87.6	12.4
大学4年生	(727)	15.8	64.1	15.8	4.3	79.9	20.1
大学院計	(1253)	14.6	68.2	14.0	3.2	82.8	17.2
大学院1年生	(560)	17.3	69.8	10.5	2.3	87.1	12.9
大学院2年生	(693)	12.4	66.8	16.9	3.9	79.2	20.8

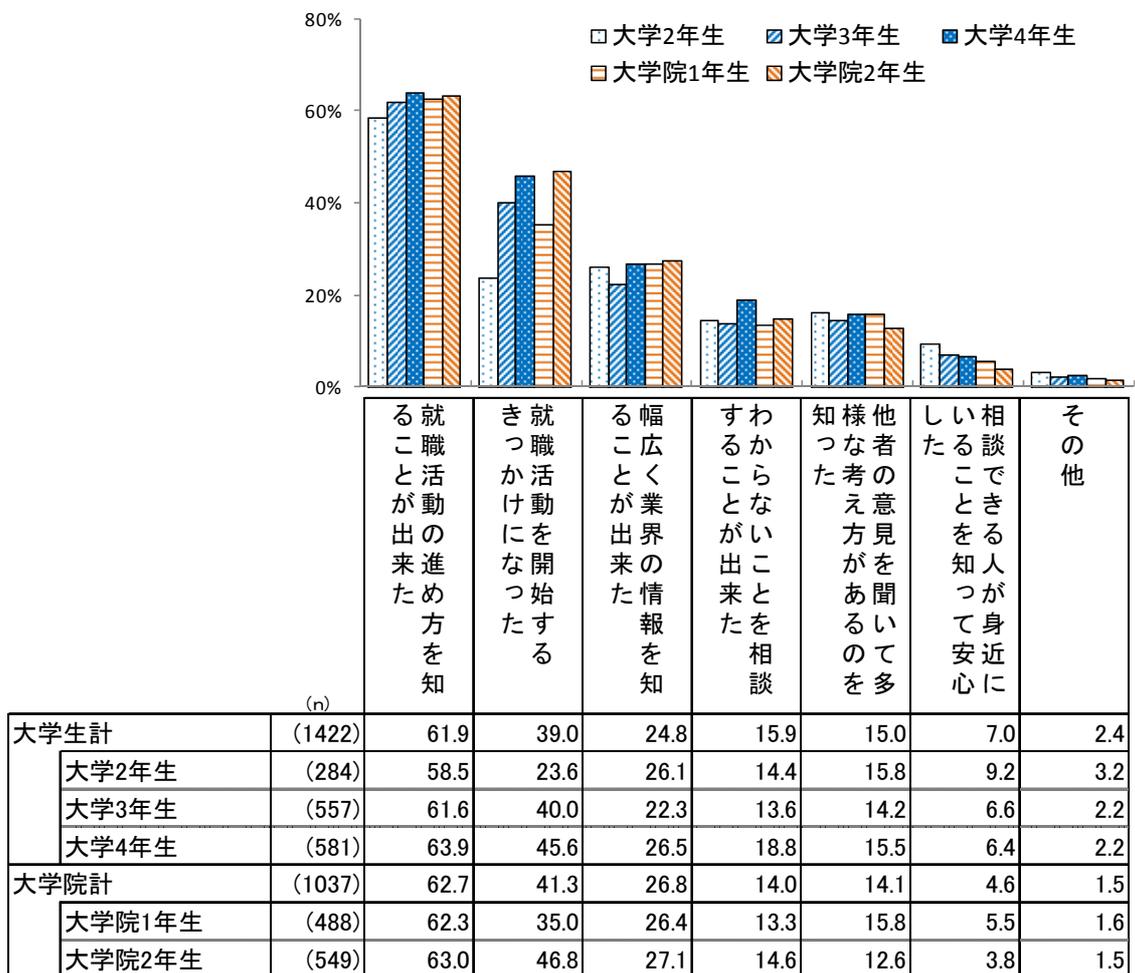
※基数は、キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）利用者

(4) キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の役立ったこと

キャリアガイダンスが役に立った点として、「就職活動の進め方を知ることが出来た」が最も高く、次いで「就職活動を始めるきっかけになった」、「幅広く業界の情報を知ることが出来た」、「わからないことを相談することが出来た」などである。

Q39. あなたがキャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）は「役に立った」とお考えになった理由はどのようなことでしょうか。あてはまるもの全てをお選びください。（いくつでも）

図 9-4 キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）の役立ったこと



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

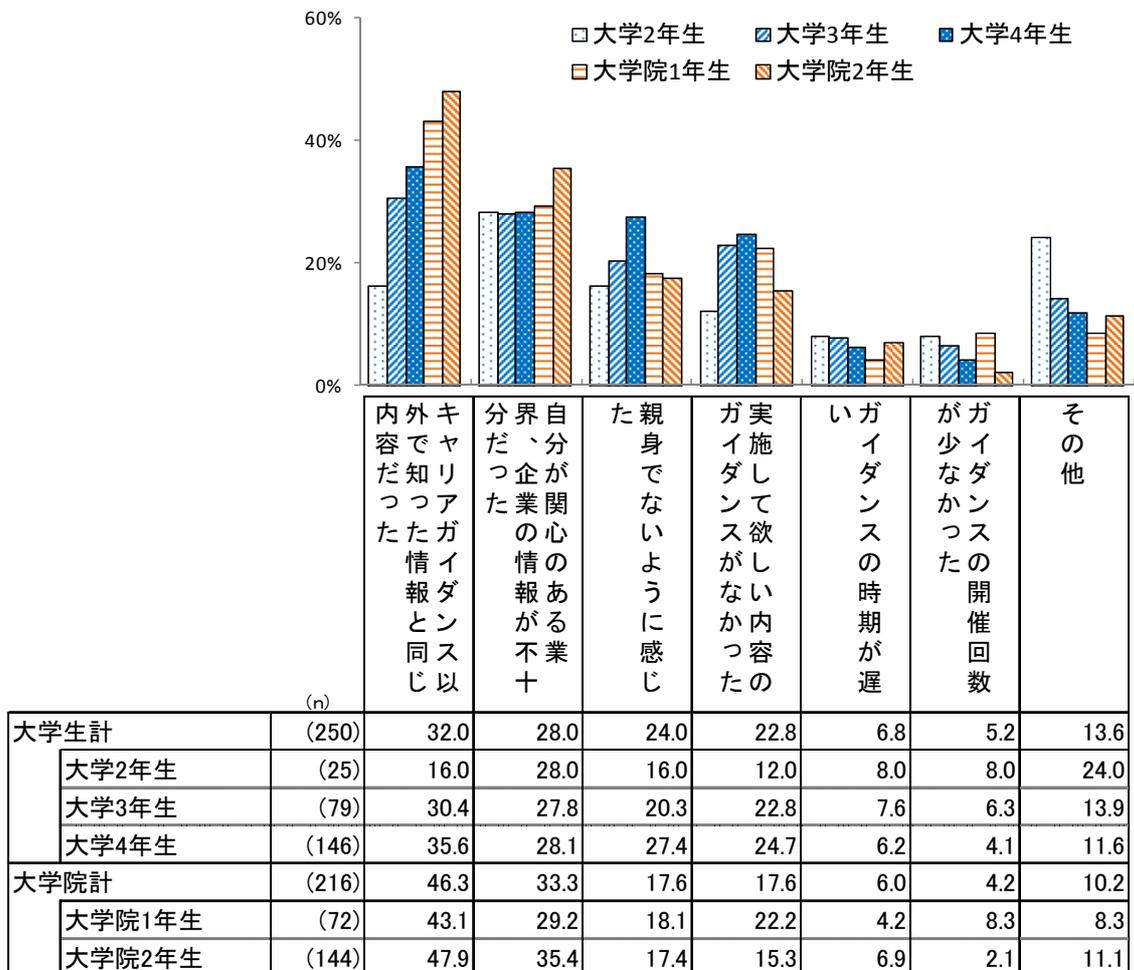
※基数は、キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）が役立った対象者

(5) キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）が役に立たなかったこと

役に立たなかった点は、「キャリアガイダンス以外で知った情報と同じ内容だった」、「自分が関心のある業界、企業の情報が不十分だった」、「親身でないように感じた」、「実施して欲しい内容のガイダンスがなかった」などである。大学院生は大学生よりも「キャリアガイダンス以外で知った情報と同じ内容だった」の割合が高く、さらに大学院2年生は「自分が関心のある業界、企業の情報が不十分だった」も高い。また、大学生は「親身でないように感じた」のような対応の仕方もあがっている。他方、ガイダンスの時期や開催回数を役に立たなかった要因と考える学生は少なかった。

Q40. あなたがキャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）は「役に立たなかった」とお考えになった理由はどのようなことでしょうか。あてはまるもの全てをお選びください。（いくつでも）

図 9-5 キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）が役に立たなかったこと



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

※基数は、キャリアガイダンス（学内セミナーへの参加を含む）が役立たなかった対象者

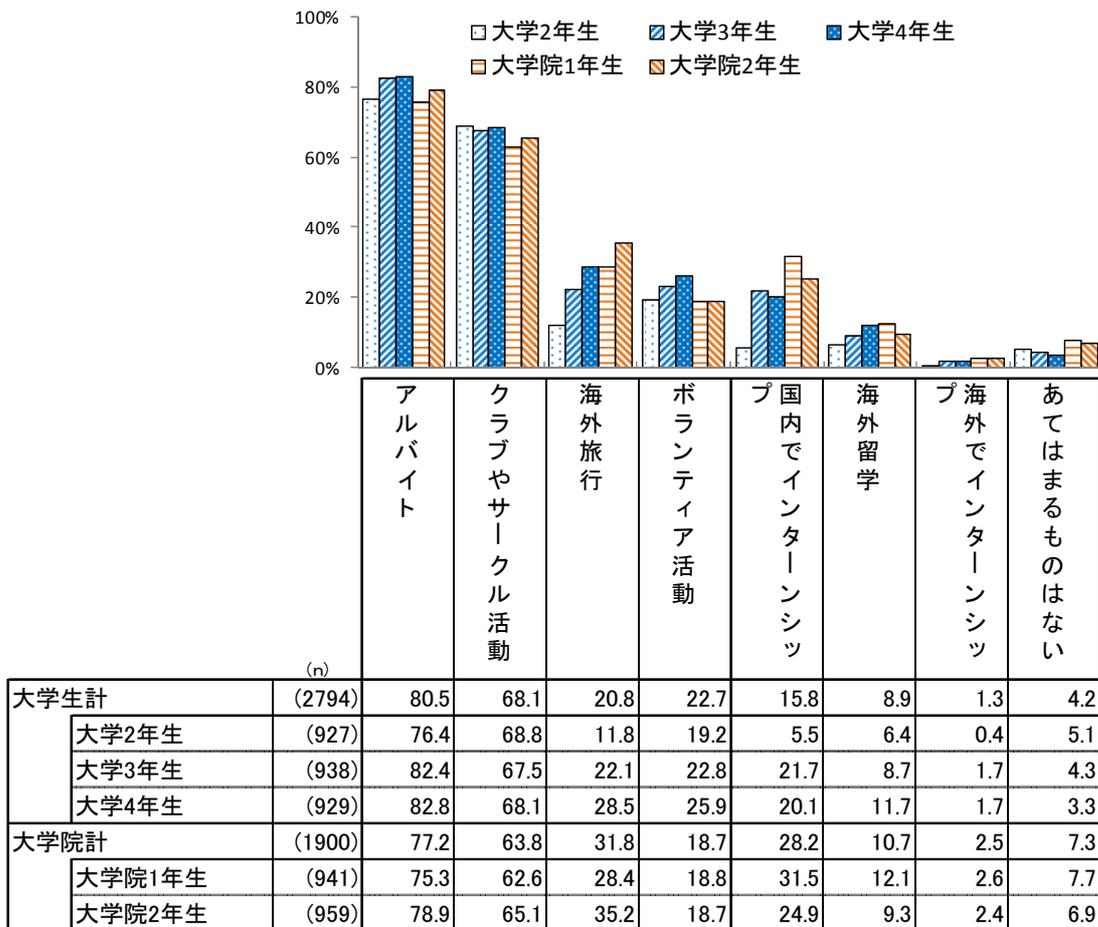
10) インターンシップの活用状況について

(1) 在学中のインターンシップの参加

大学・大学院の在学中に大学4年生の20%、大学院2年生の25%が「国内のインターンシップ」に参加している。また、就職・採用活動開始時期変更後の大学3年生は22%、大学院1年生は32%で、就職・採用活動の前年にインターンシップに参加している。大学2年生の「国内のインターンシップ」は6%で大学3年生と比べると低い。なお、「海外留学」は大学生、大学院生ともに1割前後である。

Q7. あなたは大学・大学院の在学中に次のことを行ったことがありますか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも) ※インターンシップとは、一般的には、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことをいいます。

図 10-1-1 在学中の活動



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

女子学生は男子学生よりもインターンシップの参加率が高い。  
 インターンシップの参加率が高い専攻は、社会科学、農学など。  
 国公立は私立よりもインターンシップの参加率が高い。

図 10-1-2 在学中の活動（インターンシップの参加）：

		(n)	参加した (%)	参加していない (%)
全体		(4663)	17.5	82.5
性別	男性	(2701)	15.4	84.6
	女性	(1961)	20.3	79.7
専攻	人文科学	(656)	14.5	85.5
	社会科学	(1552)	21.2	78.8
	理学	(209)	15.7	84.3
	工学	(883)	17.8	82.2
	農学	(138)	22.7	77.3
	保健	(362)	13.8	86.2
	家政	(112)	11.2	88.8
	教育	(354)	12.1	87.9
	芸術	(114)	19.0	81.0
	その他	(282)	15.2	84.8
	設置主体	国立	(970)	19.5
公立		(229)	23.1	76.9
私立		(3464)	16.6	83.4

インターンシップの参加率が高い大学所在地は、沖縄、中国、東北など。  
卒業後の進路が民間企業は、公務員、教職よりもインターンシップの参加率が高い。

図 10-1-3 在学中の活動（インターンシップの参加）：

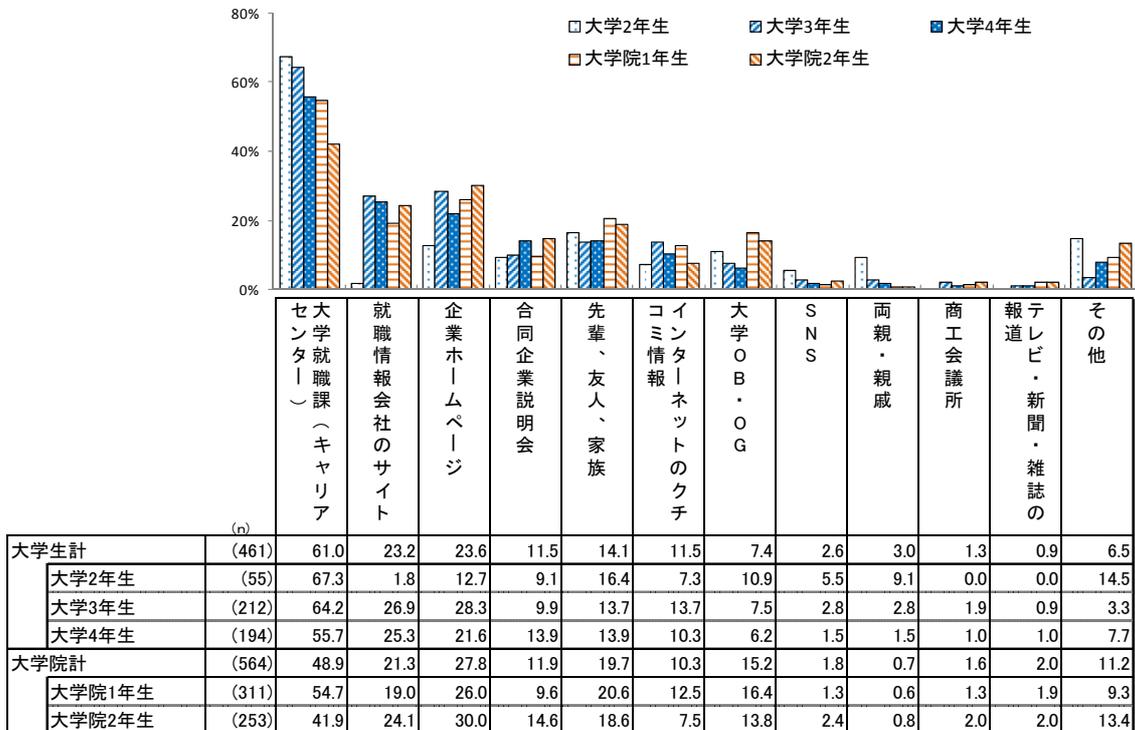
		(n)	参加した (%)	参加していない (%)
全体		(4663)	17.5	82.5
大学所在地	北海道	(146)	10.4	89.6
	東北	(167)	21.8	78.2
	関東	(2047)	19.3	80.7
	北陸	(133)	15.7	84.3
	中部	(490)	14.5	85.5
	近畿	(1093)	14.2	85.8
	中国	(218)	22.4	77.6
	四国	(74)	17.2	82.8
	九州	(282)	19.9	80.1
	沖縄	(14)	36.5	63.5
	進路	民間企業	(3941)	18.4
民間企業のみ		(3044)	18.9	81.1
公務員		(1188)	15.2	84.8
公務員のみ		(388)	14.4	85.6
教職		(472)	12.9	87.1
教職のみ		(277)	10.3	89.7

(2) インターンシップ関連情報の収集手段

インターンシップ参加者がインターンシップ関連の情報を入手するために最も多くの学生に使っているのが「大学就職課(キャリアセンター)」である。大学2年生は他の学生よりも「大学就職課(キャリアセンター)」に利用が集中している。学年が進むにしたがって、「就職情報会社のホームページ」、「企業ホームページ」、「合同企業説明会」、「先輩、友人、家族」、「インターネットのクチコミ情報」なども利用している。大学院生は大学生よりも「先輩、友人、家族」、「大学OB、OG」の人脈を利用する割合が高い。

Q41. あなたはインターンシップ関連の情報をどのような手段で収集しましたか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)

図 10-2 インターンシップ関連情報の収集手段



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

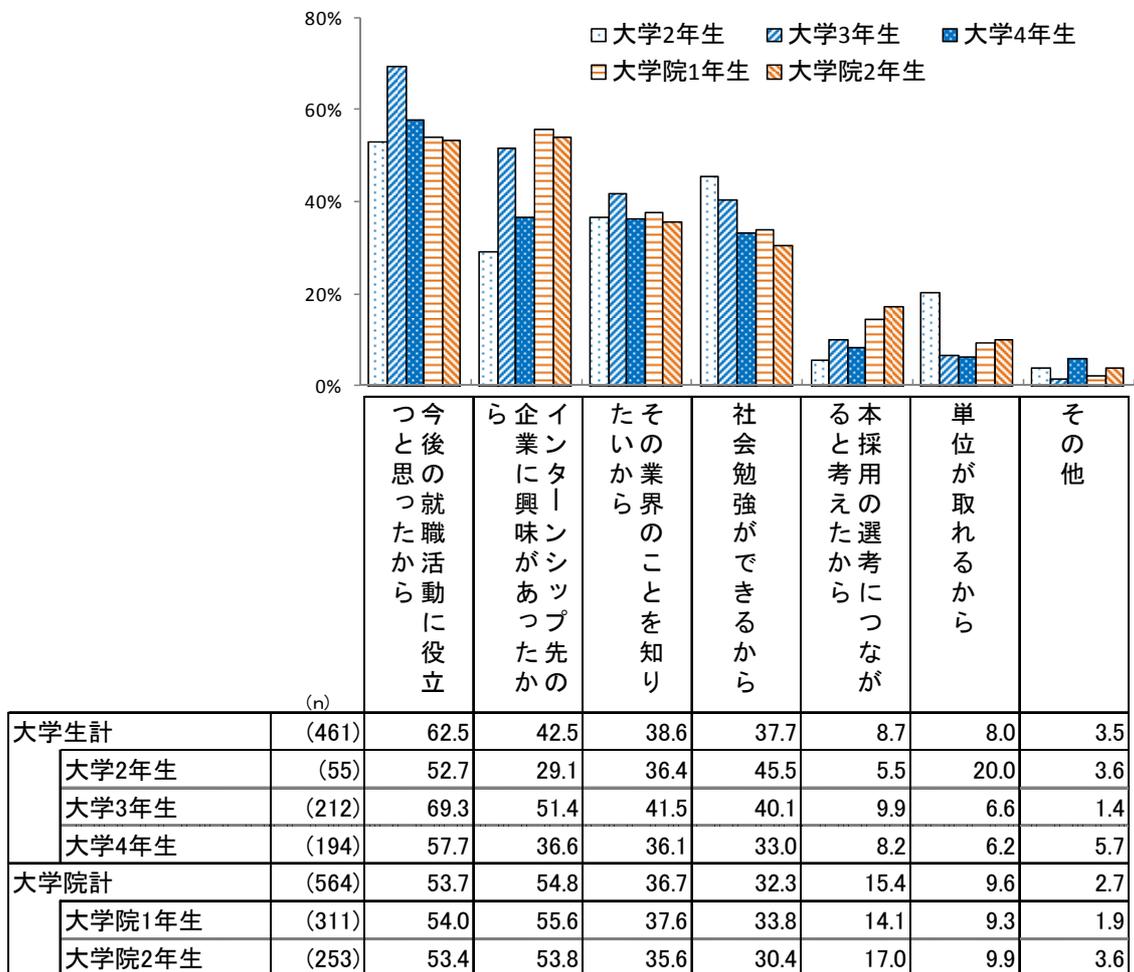
※基数は、インターンシップ参加者

(3) インターンシップの参加目的

インターンシップに参加する主な目的は、「今後の就職活動に役立つと思ったから」、「インターンシップ先の企業に興味があったから」、「その業界のことを知りたいから」、「社会勉強ができるから」である。大学3年生や大学院生は「インターンシップ先の企業に興味があったから」の割合が高い。また、大学2年生は「社会勉強ができるから」、「単位が取れるから」の割合が高い。他に、大学院生の15%は「本採用の選考につながるから」と考えている。

Q42. あなたはどのような目的でインターンシップに参加しましたか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)

図 10-3-1 インターンシップの参加目的



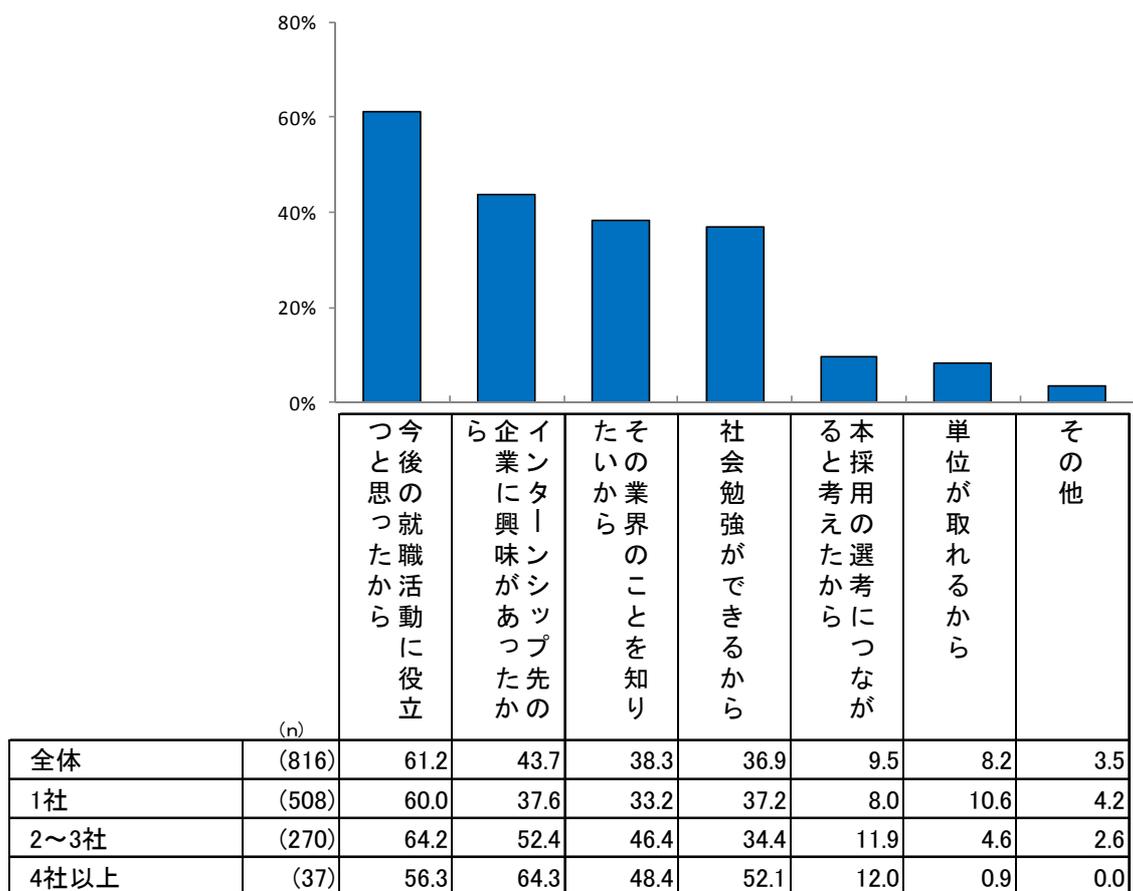
※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

※基数は、インターンシップ参加者

「インターンシップ先の企業に興味があったから」、「その業界のことを知りたいから」、「社会勉強ができるから」といった目的がある学生は複数のインターンシップに参加している。

Q42. あなたはどのような目的でインターンシップに参加しましたか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)

図 10-3-2 インターンシップの参加目的：インターンシップの参加社数 (Q43)



※大学4年生の回答数が多い選択肢順に並べている

※基数は、インターンシップ参加者

※ウエイトバック集計の結果

(4) インターンシップの参加社数

インターンシップに参加した会社数は、「1社」が最も多く、次いで「2～3社」である。ほとんどが3社以内である。

Q43. あなたは何社のインターンシップに参加しましたか。

図 10-4 インターンシップの参加社数

		%					
(n)		1社	2～3社	4～5社	6社以上	1～3社	4社以上
大学生計	(461)	62.5	33.2	3.7	0.7	95.7	4.3
大学2年生	(55)	65.5	32.7	0.8	0.8	98.2	1.8
大学3年生	(212)	59.9	34.9	5.2	0.0	94.8	5.2
大学4年生	(194)	64.4	31.4	3.1	1.0	95.9	4.1
大学院計	(564)	60.5	33.2	5.0	1.4	93.6	6.4
大学院1年生	(311)	63.7	28.9	5.8	1.6	92.6	7.4
大学院2年生	(253)	56.5	38.3	4.0	1.2	94.9	5.1

※基数は、インターンシップ参加者

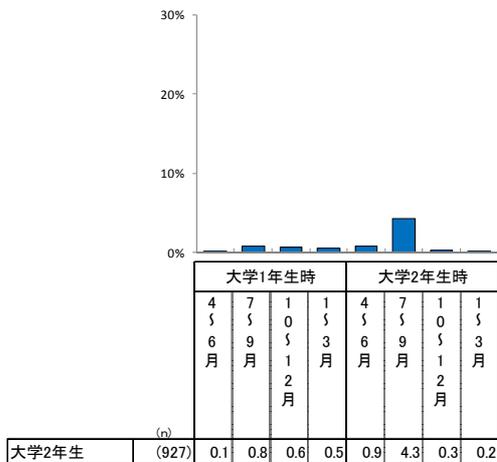
(5) インターンシップの参加時期

学年ごとにインターンシップに参加した時期を質問した。

大学2年生のインターンシップ参加率は6%で、一部の学生が参加しているに留まる。参加は大学2年生の「7～9月」である。

Q44-1. あなたはいつインターンシップに参加しましたか。あてはまるもの全てをお選びください。(矢印方向にそれぞれいくつでも) ※複数回参加している方はそれぞれの時期を回答してください。

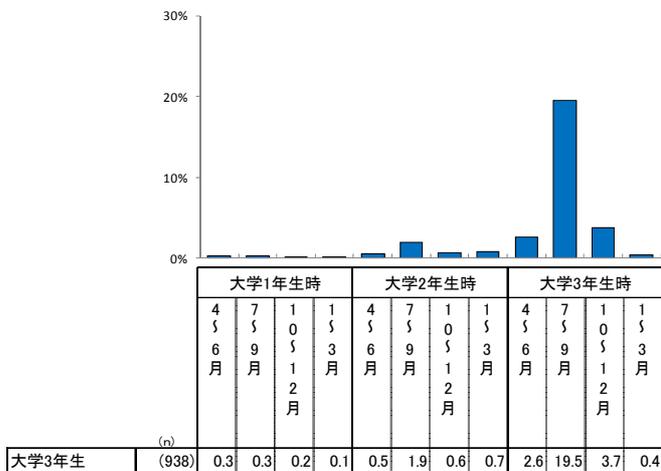
図 10-5-1 インターンシップの参加時期 (大学2年生)



※基数は、大学2年生のインターンシップ参加者

大学3年生のインターンシップ参加率は23%で、大半は大学3年生の「7～9月」に参加している。

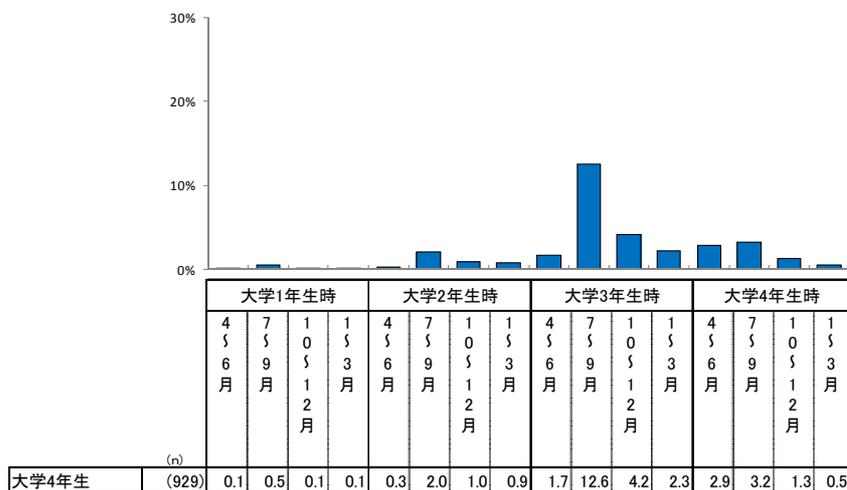
図 10-5-2 インターンシップの参加時期 (大学3年生)



※基数は、大学3年生のインターンシップ参加者

大学4年生のインターンシップ参加率は21%で、大学3年生の「7～9月」に多くの学生が参加している。それ以外に大学3年生の「10～12月」、大学4年生の「4～6月」、「7～9月」に参加している。

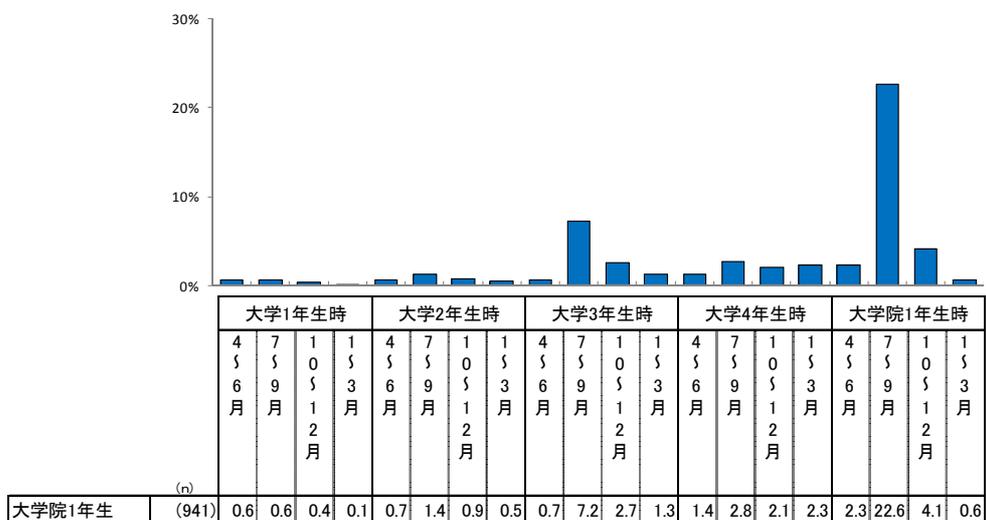
図 10-5-3 インターンシップの参加時期（大学4年生）



※基数は、大学4年生のインターンシップ参加者

大学院1年生のインターンシップ参加率は33%で、大学院1年生の「7～9月」に多くの学生が参加している。それ以外に大学3年生の「7～9月」、大学院1年の「10～12月」に参加している。

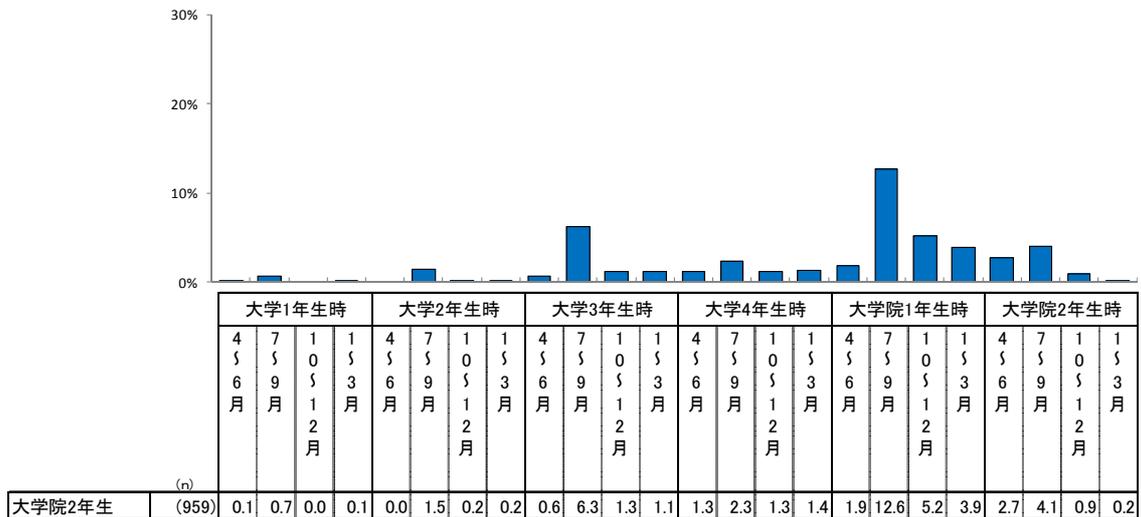
図 10-5-4 インターンシップの参加時期（大学院1年生）



※基数は、大学院1年生のインターンシップ参加者

大学院2年生のインターンシップ参加率は26%で、大学院1年生の「7～9月」に多くの学生が参加している。それ以外に大学3年生の「7～9月」、大学院1年の「10～12月」、大学院2年生の「7～9月」に参加している。

図 10-5-5 インターンシップの参加時期（大学院2年生）



※基数は、大学院2年生のインターンシップ参加者

(6) インターンシップの参加期間

参加したインターンシップの期間として、大学生は「5日未満」が最も多く、次いで「5日～10日未満」である。大学院生は「5日未満」と「5～10日未満」がほぼ同程度で、期間が長い「10日～20日未満」、「20日～40日未満」、「40日以上」にも参加している。

Q45. あなたはどれくらいの期間インターンシップに参加しましたか。あてはまるものをそれぞれ1つお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) ※複数回参加している方はそれぞれの主な期間についてお答えください。

図 10-6-1 インターンシップの参加期間

		(%)				
		5日未満	5日～10日未満	10日～20日未満	20日～40日未満	40日以上
		(n)				
大学生計	(461)	41.2	33.2	15.8	4.8	5.0
大学2年生	(55)	36.4	34.5	21.8	3.6	3.6
大学3年生	(212)	43.9	34.4	14.2	3.8	3.8
大学4年生	(194)	39.7	31.4	16.0	6.2	6.7
大学院計	(564)	29.4	29.3	22.2	12.9	6.2
大学院1年生	(311)	28.3	28.9	24.1	13.2	5.5
大学院2年生	(253)	30.8	29.6	19.8	12.6	7.1

※基数は、インターンシップ参加者

内定取得者は内定未取得よりも短期のインターンシップに参加した割合が高い。

図 10-6-2 インターンシップの参加期間：内定取得

		(%)				
		5日未満	5日～10日未満	10日～20日未満	20日～40日未満	40日以上
		(n)				
内定取得	(293)	39.7	32.2	15.3	6.2	6.6
内定未取得	(71)	34.0	27.1	21.3	10.2	7.4

(7) インターンシップの参加地域

参加したインターンシップの地域は、「大学/大学院と同じ都道府県」が最も多く、「大学/大学院の隣接の都道府県」は2割程度であった。他に大学院生は「その他の都道府県」のような遠方のインターンシップにも参加している。

Q46. あなたがインターンシップに参加した場所はどちらですか。あてはまるものをそれぞれ1つお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) ※複数回参加している方はそれぞれの主な会場についてお答えください。

図 10-7-1 インターンシップの参加地域

	(n)	参加地域 (%)				隣接以内	その他・海外
		大学/大学院と同じ都道府県	大学/大学院の隣接の都道府県	その他の都道府県	海外		
大学生計	(461)	65.1	19.7	11.3	3.9	84.8	15.2
大学2年生	(55)	78.2	12.7	5.5	3.6	90.9	9.1
大学3年生	(212)	61.8	21.2	13.7	3.3	83.0	17.0
大学4年生	(194)	64.9	20.1	10.3	4.6	85.1	14.9
大学院計	(564)	43.8	19.9	32.8	3.5	63.7	36.3
大学院1年生	(311)	41.8	21.5	33.1	3.5	63.3	36.7
大学院2年生	(253)	46.2	17.8	32.4	3.6	64.0	36.0

※基数は、インターンシップ参加者

大学等所在地や隣接とは別の都道府県でインターンシップに参加する割合が高いのは、「東北」、「北陸」、「九州」、「沖縄」などである。

図 10-7-2 インターンシップの参加地域

		(n)				(%)				
		大学/大学院と 同じ都道府県	大学/大学院の 隣接の都道府県	その他の 都道府県	海外	隣接以内	その他・海 外			
全体	(816)	62.5	19.7	13.8	3.9	82.3	17.7			
大学所在地	北海道	(15)	66.7	9.8	21.3	2.3	76.5	23.5		
	東北	(36)	52.7	14.1	28.2	5.0	66.8	33.2		
	関東	(395)	67.6	19.8	8.6	4.0	87.4	12.6		
	北陸	(21)	60.4	2.5	36.3	0.8	62.9	37.1		
	中部	(71)	70.9	23.3	5.8	0	94.2	5.8		
	近畿	(155)	45.4	33.0	15.2	6.4	78.4	21.6		
	中国	(49)	68.7	7.1	23.9	0.4	75.8	24.2		
	四国	(13)	77.3	5.5	17.2	0	82.8	17.2		
	九州	(56)	60.9	7.1	25.7	6.2	68.1	31.9		
	沖縄	(56)	60.9	7.1	25.7	6.2	68.1	31.9		

※ n 数が 50 未満の東北、北陸、中国、四国は参考値

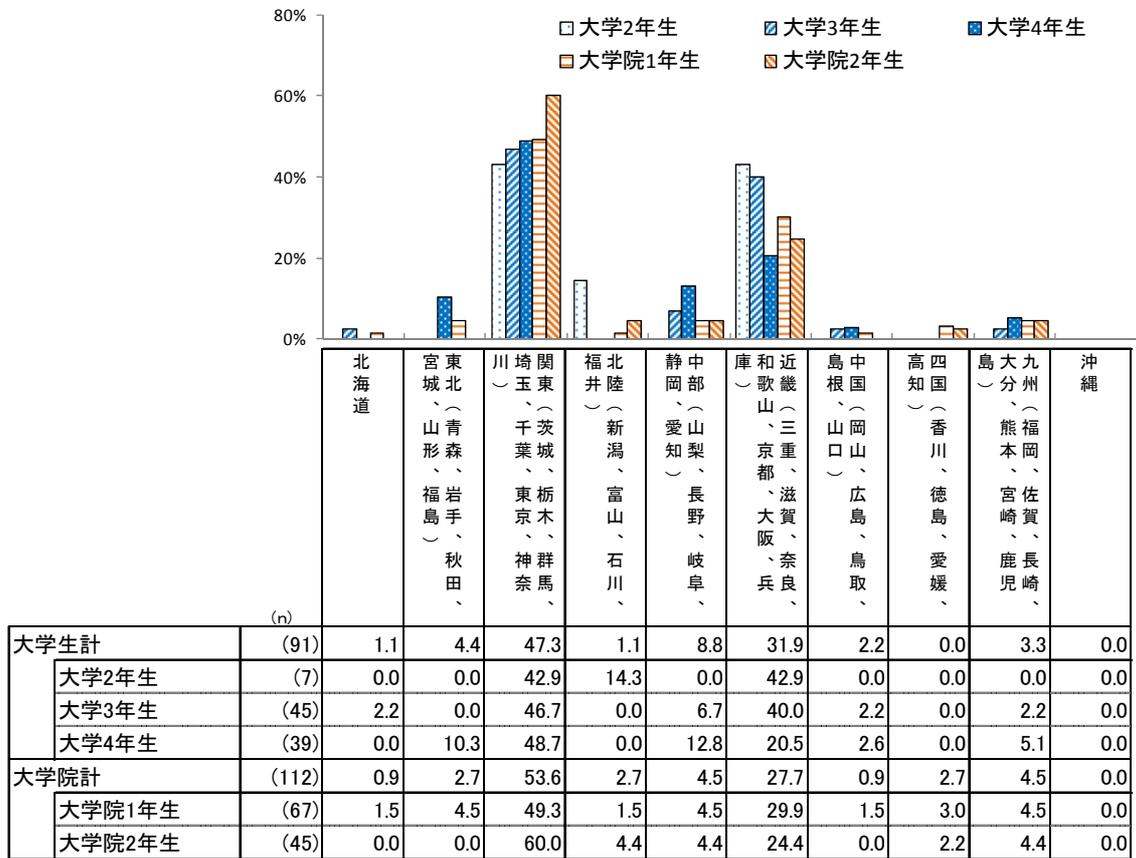
(8) インターンシップの参加地域

ア 大学/大学院が隣接する都道府県

大学等の隣接する地域でのインターンシップ場所では、「関東」が最も多く、次いで「近畿」である。大学4年生は「中部」、「東北」にも参加している。

Q47. インターンシップに参加した場所として、「大学等が隣接する都道府県」はどの地域ですか。あてはまるものをそれぞれ1つお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) ※複数回参加している方はそれぞれの主な会場についてお答えください。

図 10-8-1 インターンシップに参加した地域（大学/大学院が隣接する都道府県）



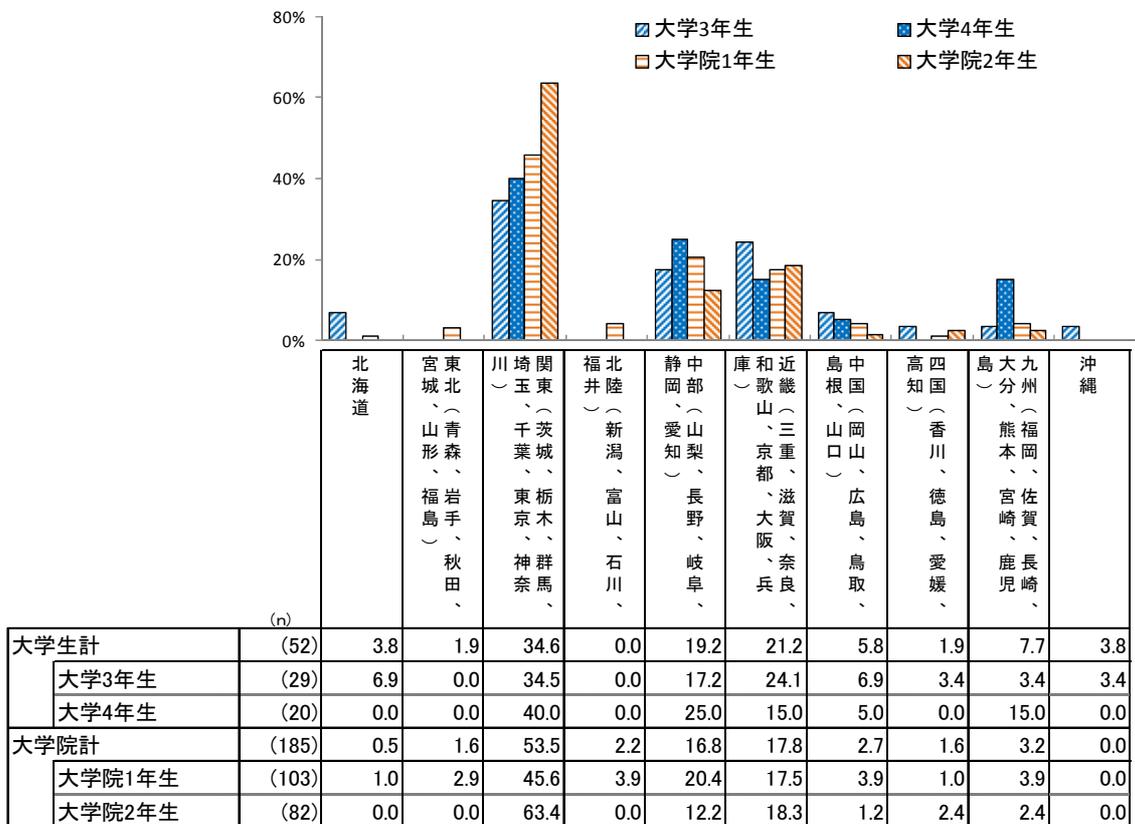
※基数は、大学等が隣接する都道府県でインターンシップ参加者

イ 大学等と同じ/隣接する都道府県以外

大学等と同じ/大学等と隣接する地域でないインターンシップ場所では、「関東」が最も多く、次いで「近畿」、「中部」である。大学4年生は「九州」にも参加している。

Q48. インターンシップに参加した場所として、「大学がある都道府県や隣接の都道府県以外都道府県」はどの地域ですか。あてはまるものをそれぞれ1つ選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) ※複数回参加している方はそれぞれの主な会場についてお答えください。

図 10-8-2 インターンシップに参加した地域（大学等と同じ/大学等と隣接する都道府県以外）



※基数は、大学等と隣接する都道府県以外でインターンシップ参加者

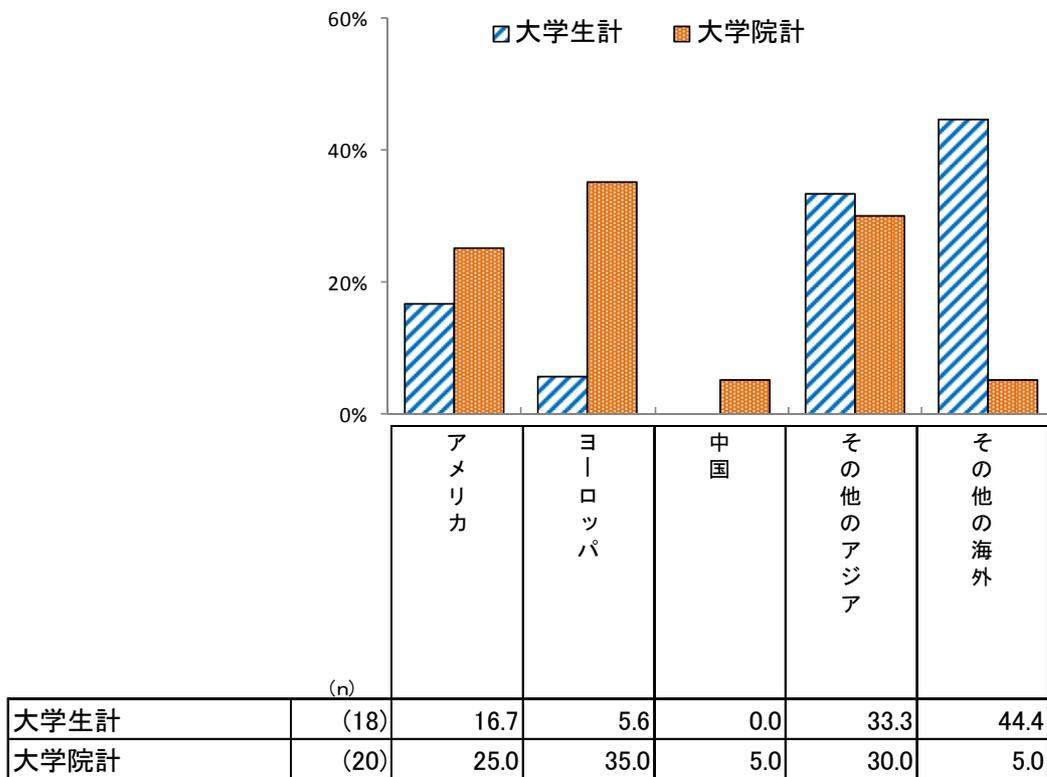
※大学2年生はn=3のため、大学生計に含めている。

ウ 海外

インターンシップ場所が海外では、「アメリカ」、「中国以外のアジア」などである。大学院生は「ヨーロッパ」にも参加している。

図 10-8-3 インターンシップに参加した地域（海外）

Q49. インターンシップに参加した場所として、「海外」とはどの地域ですか。あてはまるものをそれぞれ1つお選びください。（矢印方向にそれぞれひとつだけ）※複数回参加している方はそれぞれの主な会場についてお答えください。



※基数は、海外でインターンシップ参加者

※学年別の参加者は少数のため、大学生計、大学院生計にまとめて掲載

※海外インターンシップ参加者数が少ないため参考値

(9) 参加したインターンシップの種類

参加したインターンシップの種類として、大学4年生、大学3年生、大学院生は「実践・業務補助型」が最も多く、次いで「プロジェクト・グループワーク型」、「セミナー・見学型」である。大学2年生は「実践・業務補助型」が約半数を占めている。

図 10-9-1 参加したインターンシップの種類

Q50. あなたが参加したインターンシップの種類はどのようなものでしたか。あてはまるものをそれぞれ1つお選びください。(矢印方向にそれぞれひとつだけ) ※複数回参加している方はそれぞれの主な種類を回答してください。

		(%)				
		(n)	セミナー・見学型	プロジェクト・グループワーク型	実践・業務補助型	その他
大学生計	(461)		20.4	30.4	46.0	3.3
大学2年生	(55)		23.6	14.5	54.5	7.3
大学3年生	(212)		23.6	34.0	40.1	2.4
大学4年生	(194)		16.0	30.9	50.0	3.1
大学院計	(564)		18.3	28.2	49.5	4.1
大学院1年生	(311)		21.2	27.0	48.6	3.2
大学院2年生	(253)		14.6	29.6	50.6	5.1

※基数は、インターンシップ参加者

※調査で提示した項目は、

- セミナー・見学型（会社説明やオフィス見学、社員が会社や仕事の魅力を紹介など）
- プロジェクト・グループワーク型（学生とサポート役の社員が1つのプロジェクトチームを作り、課題解決プランの提案など、予め決められたプロジェクトに取り組む）
- 実践・業務補助型（現場の業務を行なう。はじめは社員のサポートをしながら仕事の進め方や考え方を学んでいく。慣れてきたら社員と同じように実際の業務を行なう）

セミナー・見学型の約6割、プロジェクト・グループワーク型の約5割は参加日数が「5日未満」である。「実践・業務補助型」は「5日～10日未満」、「10日～20日未満」が約6割を占め、他の種類よりも参加日数が長い。

図 10-9-2 インターンシップの参加日数：参加したインターンシップの種類

		(%)				
		5日未満	5日～10日未満	10日～20日未満	20日～40日未満	40日以上
(n)						
セミナー・見学型	(163)	61.3		26.8	5.8	4.12
プロジェクト・グループワーク型	(245)	51.7		28.9	12.0	3.24.2
実践・業務補助型	(380)	22.1	38.4		24.6	7.3 7.6
その他	(27)	48.2		21.2	11.8	18.8

※基数は、インターンシップ参加者

内定取得者は内定未取得者よりも「セミナー・見学型」、「プロジェクト・グループワーク型」に参加した割合が高い。

図 10-9-3 参加したインターンシップの種類

		(%)			
		セミナー・見学型	プロジェクト・グループワーク型	実践・業務補助型	その他
(n)					
内定取得	(293)	17.4	34.1	47.3	1.2
内定未取得	(71)	9.5	17.1	61.4	12.0

※基数は、大学4年生と大学院2年生のインターンシップ参加者

(10) 参加したインターンシップが役立った程度

大学4年生の9割弱、大学3年生、大学2年生、大学院生の9割以上が、インターンシップが「役に立った」と回答している。

Q51. あなたはインターンシップがどの程度役に立ったと思いますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

図 10-10-1 参加したインターンシップが役立った程度

	(n)	%				役立った計	役立たなかった計
		とても役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった		
大学生計	(461)	38.0	52.7	7.4	2.0	90.7	9.3
大学2年生	(55)	43.6	52.7	1.8	3.8	96.4	3.6
大学3年生	(212)	36.3	56.1	6.1	1.4	92.5	7.5
大学4年生	(194)	38.1	49.0	10.3	2.6	87.1	12.9
大学院計	(564)	44.3	49.1	5.9	1.7	93.4	6.6
大学院1年生	(311)	44.7	48.9	6.1	1.3	93.6	6.4
大学院2年生	(253)	43.9	49.4	5.5	1.2	93.3	6.7

※基数は、インターンシップ参加者

「実践・業務補助型」のインターンシップに参加した学生は「とても役に立った」の割合が最も高い。次いで「プロジェクト・グループワーク型」で、「セミナー・見学型」は最も低かった。

Q51. あなたはインターンシップがどの程度役に立ったと思いますか。(矢印方向にそれぞれひとつだけ)

図 10-10-2 参加したインターンシップが役立った程度：参加したインターンシップの種類 (Q50)

	(n)	%				役立った計	役立たなかった計
		とても役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	役に立たなかった		
全体	(816)	38.7	52.1	7.3	1.8	90.9	9.1
セミナー・見学型	(163)	27.9	63.0	8.0	1.1	90.9	9.1
プロジェクト・グループワーク型	(245)	39.7	49.2	10.4	0.7	88.9	11.1
実践・業務補助型	(380)	43.9	49.8	4.2	1.1	93.7	6.3

※基数は、インターンシップ参加者

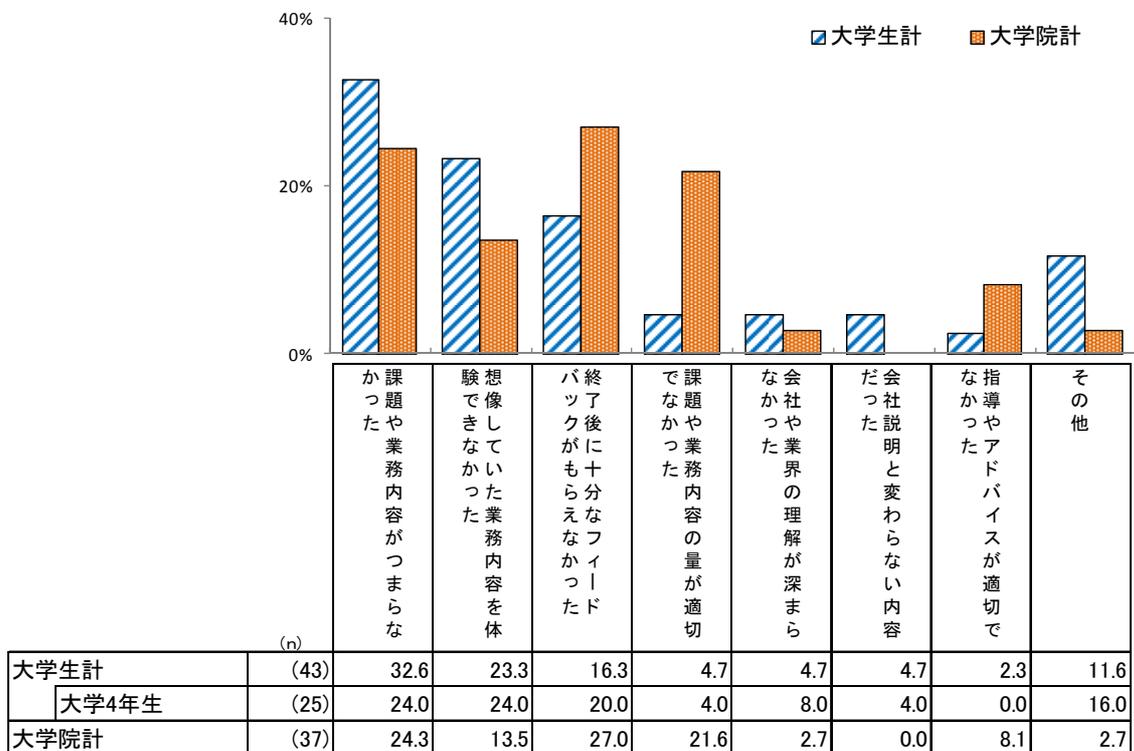
※ウエイトバック集計の結果

(11) 参加したインターンシップが役に立たなかった理由

インターンシップが役に立たなかった理由として、大学生は「課題や業務内容がつまらなかった」、「想像していた業務内容を体験できなかった」、「終了後に十分なフィードバックがもらえなかった」などである。大学院生は「終了後に十分なフィードバックがもらえなかった」、「課題や業務内容がつまらなかった」、「課題や業務内容の量が適切でなかった」などであった。

Q52. あなたはインターンシップのどのような点が役に立たないと思いましたか。あてはまるもの全てをお選びください。(矢印方向にそれぞれいくつでも)

図 10-11 参加したインターンシップが役立たなかった理由



※基数は、インターンシップが役に立たなかったと評価した参加者

※大学生の回答数が多い選択肢順に並べている

※大学4年生は参考値（他の学年の回答数：大学2年生（n=2）、大学3年生（n=16）、大学院1年生（n=20）、大学院2年生（n=17））

(12) インターンシップの参加意向

インターンシップにまだ参加していない大学3年生のうち、「参加したい」は12%で、「まあ参加したい」を合わせると51%が参加したいと回答している。大学院1年生は50%が参加したいと回答している。大学2年生は54%が参加したいと回答している。

Q53. あなたはインターンシップに参加したいと思いますか／参加したいと思いませんか。

図 10-12 インターンシップの参加意向

	(n)	参加意向 (%)					参加したい計	参加したくない計
		参加したい	まあ参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	参加したくない		
大学生計	(2333)	17.4	30.4	33.9	9.1	9.1	47.8	18.2
大学2年生	(872)	19.6	34.5	35.1	5.6	5.2	54.1	10.8
大学3年生	(726)	20.2	31.0	33.2	8.1	7.4	51.2	15.6
大学4年生	(735)	12.1	24.9	33.3	14.3	15.4	37.0	29.7
大学院計	(1336)	14.4	29.0	35.0	9.1	12.6	43.4	21.6
大学院1年生	(630)	19.2	30.3	33.2	6.3	11.0	49.5	17.3
大学院2年生	(706)	10.2	27.8	36.5	11.5	14.0	38.0	25.5

※基数は、インターンシップ未参加者

(13) インターンシップの未参加の理由

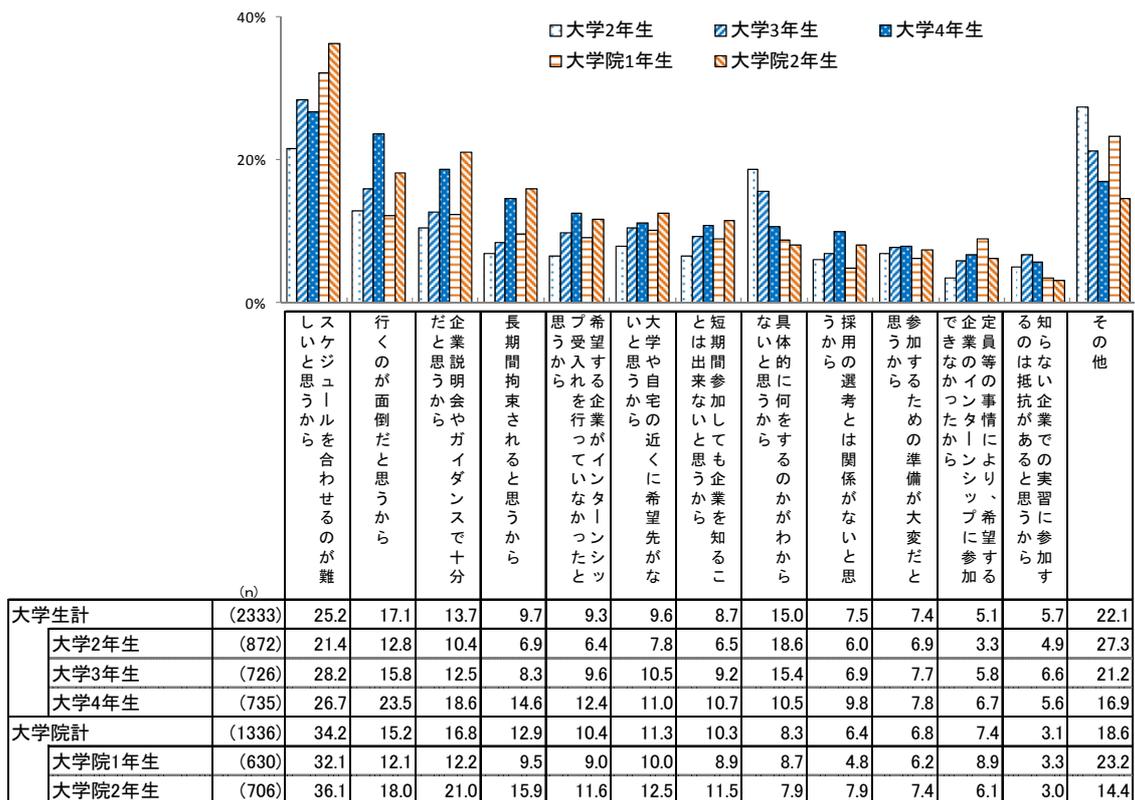
インターンシップに未参加の理由として、大学4年生は「スケジュールを合わせるのが難しいと思うから」、「行くのが面倒だと思うから」、「企業説明会やガイダンスで十分だと思うから」、「長期間拘束されると思うから」、「希望する企業がインターンシップ受入れを行っていなかったと思うから」、「大学や自宅の近くに希望先がないと思うから」などを主な理由としている。

大学院生は「行くのが面倒だと思うから」の割合が低いものの、それ以外は大学4年生と似通った理由を挙げている。

大学3年生、大学2年生は「具体的に何をするのがわからないと思うから」も参加しない理由に挙げている。

Q54. あなたがインターンシップに参加しない理由は何ですか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)

図 10-13-1 インターンシップの未参加の理由

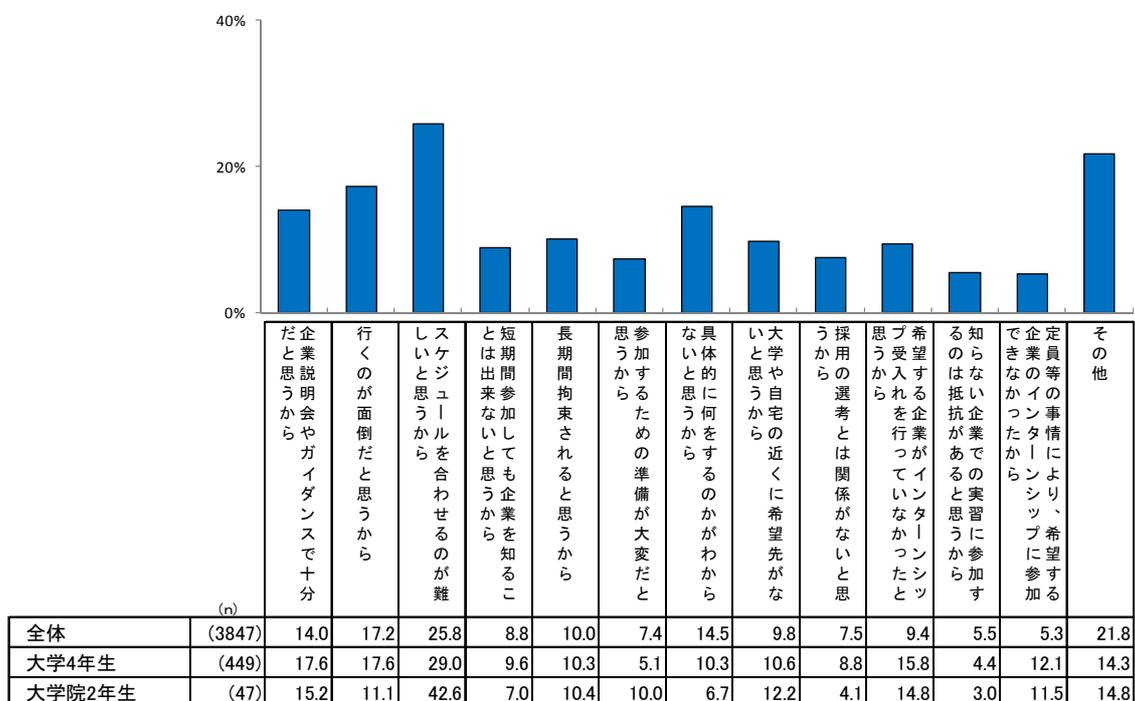


※基数は、インターンシップ未参加者

インターンシップへの参加意向があるにもかかわらず参加しない理由は、大学4年生、大学院2年生共に「スケジュールを合わせるのが難しいと思うから」が最も高い。特に大学院2年生は43%が挙げている。また、「希望する企業がインターンシップ受入れを行っていなかったと思うから」、「定員等の事情により、希望する企業のインターンシップに参加できなかったから」などで断念した学生もいる。

図 10-13-2 インターンシップの未参加の理由：インターンシップに参加意向がある大学4年生、大学院2年生

Q54. あなたがインターンシップに参加しない理由は何ですか。あてはまるもの全てをお選びください。(いくつでも)



※全体の基数は、インターンシップ未参加者

※大学4年生、大学院2年生は、インターンシップに「参加したい」、「まあ参加したい」の合計

※ウエイトバック集計の結果

(14) インターンシップに参加した企業等への就職（内定）

インターンシップに参加した企業等に就職（内定）した大学4年生は18%、大学院2年生は29%であった。

ただし、インターンシップを受けた企業等に就職（内定）した大学4年生（17.5%）のうち、10.4%は大学4年生になってインターンシップに参加している。同様に、インターンシップを受けた企業等に就職（内定）した大学院2年生（29.2%）のうち、11.5%は大学院2年生になってインターンシップに参加している。このことから、内定後のインターンシップの参加が含まれている可能性がある。

Q55. あなたはインターンシップに参加した企業等に就職（内定）していますか。

図 10-14 インターンシップの参加と就職（内定）企業

		(%)		
		インターンシップ参加企業等に就職	参加企業等以外に就職	内定していない
	(n)			
大学4年生	(194)	17.5 *	61.3	21.1
大学院2年生	(253)	29.2 *	62.1	8.7

※基数は、インターンシップ参加者

※大学4年生でインターンシップ参加企業等に就職した学生17.5%のうち10.4%は大学4年生にインターンシップに参加。大学院2年生でインターンシップ参加企業等に就職した学生29.2%のうち11.5%は大学院2年生にインターンシップに参加。